文化庁委託事業
ウィズコロナにおけるオンライン日本語教育実証事業

オンライン日本語教育実証
グッドプラクティス集

令和５年３月３１日
株式会社ＪＴＢ

グッドプラクティス集　目次

目次			ページ
はじめに－グッドプラクティス集作成の経緯－			2
レベル別インデックス			4
グッドプラクティス事例共有　※日本語教育機関名５０音順で掲載			9
日本語教育機関名	**コース名**	**コース名詳細（フリーコースのみ）**	
アークアカデミー新宿校	フリーコース	進学セミナー	9
アークアカデミー新宿校	フリーコース	日本語能力試験Ｎ１対策コース	１１
アークアカデミー新宿校	スタンダードコース		１３
ＩＳＩキャリア外語アカデミー原宿校	観光コース		１５
ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース	初級日本事情・会話コース	１７
ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース	日本語能力試験Ｎ２対策	１９
ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース	日本での就職活動と日本語	２１
ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース	日本事情と日本語表現（中級）	２３
ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース	「漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	２５
大阪文化国際学校	観光コース		２７
岡山外語学院	フリーコース	初級文型オンライン用教材作成	２９
岡山外語学院	観光コース		３１
岡山外語学院	就労コース		３３
ＫＣＰ地球市民日本語学校	フリーコース	間接法	３５
ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース		３７
埼玉日本語学校	スタンダードコース		３９
埼玉日本語学校	就労コース		４１
千駄ヶ谷外語学院	フリーコース	就職活動のための日本語	４３
千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース	日本語能力試験対策	４５
千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース	総合日本語	４７
千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校	フリーコース	総合日本語	４９
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース		５１
専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース		５３
帝京平成大学付属日本語学校	観光コース		５５
東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース	初級会話	５７
東京ギャラクシー日本語学校	観光コース		５９
東京ギャラクシー日本語学校	就労コース		６１
東京こころ日本語学校	観光コース		６３
東北多文化アカデミー	スタンダードコース		６５
東北多文化アカデミー	観光コース		６７
早稲田京福語学院	観光コース		６９

はじめに－グッドプラクティス集作成の経緯－

グッドプラクティス集作成の経緯

本事業では、３８校の日本語教育機関が合計８３コースのオンライン日本語授業の実証を行った。このグッドプラクティス集は、実証の成果・課題を集約・分析した中で優れた取組や工夫が見られた取組についてまとめ、広く日本語教育機関並びに日本語教育関係者へ事例を共有するため作成を行った。

成果報告書内「５．評価検証委員会による分析５－２．教育的視点から見たグッドプラクティス」より抜粋

各校で実施された日本語教育授業の評価は、以下の文化庁より示された分析の区分に加え、分析の観点を参考に評価検証委員会が作成した＜行った実証を総体として評価するルーブリック＞に基づき抽出している。

≪文化庁より示された分析の区分と観点について≫

【区分】
レベル【Ａ１、 Ａ２、 Ｂ１、 Ｂ２、 Ｃ】：５レベル
授業で扱う技能等【話す(やり取り)、話す(発表)、聞く、読む、書く、日本事情、その他】：７領域
実施手法【オンライン、ハイブリッド、オンデマンド、ハイフレックス】：４手法
学習目的【進学、就職、一般】：３種類

【観点】
①コースの目標設定とプログラム（カリキュラム・教師配置・評価等）の適切性
②教育内容・方法の適切性
③目標の達成度・成果の分析
上記の５つの観点を組み合わせた計４２０項目からなるマトリクス（５×７×４×３＝４２０）が示され、今回の事業で得られた多様な教育実践例から「グッドプラクティス」を、このマトリクスの各項目についてそれぞれ複数選定するよう求められている。

＜行った実証を総体として評価するルーブリック＞

	４点	３点	２点	１点
日本語教育機関独自の目標	「現状の課題」「目標」「期待する成果」「成果を自己分析できる体制・手法」という４項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	３項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	２項目について、申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされている。	申請時の目標や課題に実証を踏まえた明確な記述がなされた項目が１つ以下である。
学習効果・成果（総括）	複数の観点について、すべて根拠を示しながら総括がなされている。	複数の観点について総括がなされているが、根拠が示されていないものがある。	複数の観点について総括がなされているが根拠がまったく示されていない。	１つの観点についてしか述べられていない。
日本語教育機関の実証内容 ※日本語教育機関のマトリクス自己評価から点数付け。	すべての項目が４以上である。	ほとんどの項目が４以上だが、いくつか３が見られる。	４以上の項目と３以下の項目がほぼ同数である。／ほとんどの項目が４以上だが、１が見られる。	すべての項目が３以下である。

はじめに－グッドプラクティス集作成の経緯－

■「グッドプラクティス」の抽出のための採点方法は、以下の根拠に基づくものである。

【根拠１】参加校による個別の自己評価データ

参加校はコースごとに、「授業で扱う技能等（※１）」それぞれについての「達成度」を、「レベル」「手法」「目的」に分け、６段階（※２）に分けて自己評価している。

（※１）授業で扱う技能等
話す（やり取り）・話す（発表）
聞く・読む・書く・日本事情・その他
（※２）６段階

6	達成できた	3	やや達成できなかった
5	ほぼ達成できた	2	あまり達成できなかった
4	やや達成できた	1	まったく達成できなかった

［自己評価データ　イメージ］

		オンライン（双方向）のみ			ハイブリッド型		
		進学	就職	一般	進学	就職	一般
A1	話す（やりとり）	5	4	6	5	5	6
	話す（発表）	6	6	5	5	5	5
	聞く	5	5	5	5	5	5
	読む	2	3	3	2	3	3
	書く	1	1	2	1	1	1
	日本事情･日本理解	5	5	6	5	5	6
	その他						

【根拠２】事務局が行った総体評価のデータ

本事業参加校は事業終了後、実施したコースごとに「最終報告書」を提出している。
評価検証委員会では、その報告書の記載内容のうち「日本語教育機関独自の目標」「学習効果・成果（総括）」「日本語教育機関の実証内容」の３項目に注目し、行った実践を総体として評価するためのルーブリックを作成した。
そして、そのルーブリックに基づいて、事務局において日本語教育機関ごと、コースごとの評価を行った。
（４点×３項目=１２点満点）

【根拠１】として示された、「授業で扱う技能等」それぞれについての自己評価の評点に、その日本語教育機関・コースに対する総体評価【根拠２】の評点を加算する。例えば、総体評価の評点が１１点であった日本語教育機関・コースが、「話す（やり取り）」、「話す（発表）」、「聞く」、「読む」という各項目についてそれぞれ５点、５点、５点、４点、という自己評価を行っている場合、その日本語教育機関・コースの評点は以下の通りとなる。

例）話す（やり取り）　１１+5=１６
　　話す（発表）　　１１+5=１６
　　聞く　　１１+5=１６
　　読む　　１１+4=１５

レベル別インデックス

■Ａ１レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ
オンライン	進学	話す（やりとり）	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４９
		話す（発表）	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４９			
		聞く	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７	千駄ヶ谷日本語教育研究所附属日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４９
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５						
		日本事情日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５						
		その他	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５			
オンライン	就職	話す（やりとり）	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３			
		話す（発表）	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９						
		聞く	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５			
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５						
		日本事情日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５						
		その他	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５			
オンライン	一般	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	スタンダードコース	p.３９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＫＣＰ地球市民日本語学校	フリーコース 間接法	p.３５
		話す（発表）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５						
		聞く	埼玉日本語学校	スタンダードコース	p.３９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東京こころ日本語学校	観光コース	p.６３
		読む	埼玉日本語学校	スタンダードコース	p.３９	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		書く	埼玉日本語学校	スタンダードコース	p.３９	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５			
		日本事情日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＫＣＰ地球市民日本語学校	フリーコース 間接法	p.３５			
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５						
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情日本理解									
		その他									
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７						
		話す（発表）									
		聞く	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７						
		読む									
		書く									
		日本事情日本理解									
		その他									
オンデマンド	一般	話す（やりとり）	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７						
		話す（発表）									
		聞く	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７						
		読む									
		書く									
		日本事情日本理解									
		その他									
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情日本理解									
		その他									

レベル別インデックス

■Ａ２レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ
オンライン	進学	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	岡山外語学院	観光コース	p.３１
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話	p.５７	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		その他	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５			
オンライン	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９			
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５			
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	フリーコース 初級文型オンライン用教材作成	p.２９			
オンライン	一般	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話	p.５７
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東京ギャラクシー日本語学校	フリーコース 初級会話	p.５７
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	大阪文化国際学校	観光コース	p.２７
		読む	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		書く	ＡＢＫ学館日本語学校	フリーコース 漢字Ｗａｌｋｅｒ と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス	p.２５	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	大阪文化国際学校	観光コース	p.２７			
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		話す（発表）									
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
ハイブリッド	就職	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		話す（発表）									
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
ハイブリッド	一般	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		話す（発表）									
		聞く	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		読む	アークアカデミー新宿校	スタンダードコース	p.１３						
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７
		話す（発表）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	岡山外語学院	観光コース	p.３１
		聞く	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 総合日本語	p.４７
		読む	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		日本事情 日本理解	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７
		その他									
オンデマンド	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		話す（発表）	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		聞く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		読む	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７			
		その他									
オンデマンド	一般	話す（やりとり）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		話す（発表）	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	岡山外語学院	観光コース	p.３１
		聞く	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		読む	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７			
		書く	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７						
		日本事情 日本理解	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	観光コース	p.５１	ＡＲＣ京都日本語学校	フリーコース 初級日本事情・会話コース	p.１７	ＫＣＰ地球市民日本語学校	観光コース	p.３７
		その他									
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									

レベル別インデックス

■Ｂ１レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ
オンライン	進学	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東北多文化アカデミー	観光コース	p.６７
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p.１９						
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東北多文化アカデミー	観光コース	p.６７
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	東北多文化アカデミー	観光コース	p.６７
オンライン	就職	話す（やりとり）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３	ＩＳＩキャリア外語アカデミー原宿校	観光コース	p.１５
		話す（発表）	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３	ＩＳＩキャリア外語アカデミー原宿校	観光コース	p.１５
		聞く	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		読む	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p.１９	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p.４３			
		日本事情 日本理解	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１
		その他	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p.１９
オンライン	一般	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p.１９	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p.４３			
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p.２１
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	帝京平成大学附属日本語学校	観光コース	p.５５	岡山外語学院	就労コース	p.３３
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３			
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p.９
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p.９						
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
オンデマンド	就職	話す（やりとり）	岡山外語学院	就労コース	p.３３	東京ギャラクシー日本語学校	観光コース	p.５９			
		話す（発表）	岡山外語学院	就労コース	p.３３						
		聞く	岡山外語学院	就労コース	p.３３						
		読む	岡山外語学院	就労コース	p.３３						
		書く									
		日本事情 日本理解	岡山外語学院	就労コース	p.３３						
		その他	岡山外語学院	就労コース	p.３３						
オンデマンド	一般	話す（やりとり）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
		話す（発表）	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３			
		聞く	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３	岡山外語学院	就労コース	p.３３
		読む	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
		書く									
		日本事情 日本理解	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
		その他	埼玉日本語学校	就労コース	p.４１	岡山外語学院	就労コース	p.３３	専門学校長野ビジネス外語カレッジ	就労コース	p.５３
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く									
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
ハイフレックス	就職	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p.６１						
		話す（発表）									
		聞く									
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
ハイフレックス	一般	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p.６１						
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p.６１						
		聞く									
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									

レベル別インデックス

■Ｂ２レベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ
オンライン	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		話す（発表）									
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	p. ４５
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	p. ２１	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	p. ４５			
オンライン	就職	話す（やりとり）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３						
		話す（発表）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３			
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	p. ２１	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９						
オンライン	一般	話す（やりとり）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３						
		話す（発表）	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	p. ４５
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３	千駄ヶ谷日本語学校	フリーコース 日本語能力試験対策	p. ４５
		書く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. ２１	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳）	p. ２１	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. ４３
		その他	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ２対策	p. １９						
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		話す（発表）									
		聞く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３			
		読む	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３			
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		日本事情 日本理解	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３			
		その他									
オンデマンド	就職	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		書く									
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		その他									
オンデマンド	一般	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		書く									
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. ２３						
		その他									
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く									
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
ハイフレックス	就職	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		聞く	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		その他									
ハイフレックス	一般	話す（やりとり）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		話す（発表）	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		聞く	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		読む									
		書く									
		日本事情 日本理解	東京ギャラクシー日本語学校	就労コース	p. ６１						
		その他									

レベル別インデックス

■Cレベル

手法	対象	言語活動	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ	日本語教育機関名	コース	ページ
オンライン	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21			
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21						
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9	アークアカデミー新宿校	フリーコース 日本語能力試験Ｎ１対策コース	p. 11			
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9
		その他									
オンライン	就職	話す（やりとり）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43			
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43			
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		書く	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		その他									
オンライン	一般	話す（やりとり）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43			
		話す（発表）	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43			
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		書く	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43						
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語	p. 21	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本での就職活動と日本語（英訳付）	p. 21	千駄ヶ谷外語学院	フリーコース 就職活動のための日本語	p. 43
		その他									
ハイブリッド	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									
オンデマンド	進学	話す（やりとり）	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		話す（発表）									
		聞く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		読む	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		書く	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		日本事情 日本理解	アークアカデミー新宿校	フリーコース 進学セミナー	p. 9						
		その他									
オンデマンド	就職	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		書く									
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		その他									
オンデマンド	一般	話す（やりとり）									
		話す（発表）									
		聞く	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		読む	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		書く									
		日本事情 日本理解	ＡＲＣ東京日本語学校	フリーコース 日本事情と日本語表現（中級）	p. 23						
		その他									
ハイフレックス	進学	話す（やりとり）									
	／	話す（発表）									
	就職	聞く									
	／	読む									
	一般	書く									
		日本事情 日本理解									
		その他									

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

アークアカデミー新宿校

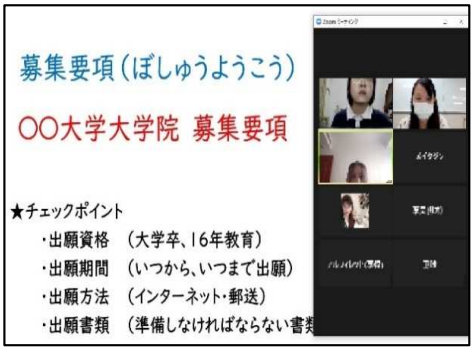
住所：東京都新宿区西新宿７－１８－１６東信西新宿ビル３階

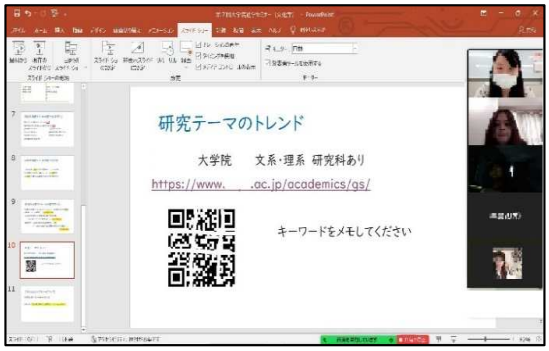
実証概要

ARC ACADEMY アークアカデミー 日本語学校

コース名	フリーコース《進学セミナー》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・教師作成パワーポイント資料、課題用資料（ｗｏｒｄ）
受講者情報	受講者数合計９人 （【内訳】渡日前留学生６人・国外留学希望（予定）者１人・海外就労者２人） ・全員オンライン受講（８名ＰＣ、１名スマートフォン）
授業概要	●日本の大学院の仕組み・研究計画書の書き方・志望理由書のポイント等の指導 ・日本の大学院の仕組みについて説明を聞き自身の志望大学院について調べグループ発表 ・志望理由について日本語で述べる。他の受講者からの質問に答える ・大学院で研究したい内容について、グループで話をし、他の受講者の意見や感想を聞く





申請時点　【課題と目標】

・大学院進学希望者は増加しているが、準備不足の受講者が多い。
・来日後、スムーズに大学院進学に向けて準備することができるようになること、日本の大学院の仕組みや求められる学生像を理解し、来日後にスムーズに進学に向けて動くことができるようになることが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・日本の大学院の仕組みや求められる学生像について理解することができた。
・毎回とはいかなかったが、志望する大学院の内容についてまとめたり、研究計画書の概要について書いたりすることで、来日後の準備につなげられた。数名は本授業終了後に来日をし、大学院の進学準備をスムーズに行うことができている。

事業成果

オンライン × 話す（やりとり）

各回の内容に沿って、以下の流れで授業を実施した。
・教師の説明を聞く：日本の大学院の仕組みについて説明を聞く。
・グループで話し合い（または個人作業）、発表：
　自身が志望する大学院について調べ、グループ発表。
　志望理由について日本語で述べる。他の受講者からの質問に答える。
　大学院で研究したい内容について、グループで話をし、他の受講者の意見や感想を聞く。
大学院で研究したい内容や志望理由について情報を交換したり、個人的な意見を表明したりすることができるようになった。

オンライン × 書く

「志望する大学院の教授・研究室を実際に調べ、まとめる」「研究計画書の例を参考にしながら、自身の研究したい内容について概要を書く」「志望理由書の例を参考にしながら、志望する大学院（研究室）について入りたい理由を書く」といった活動を行った。第５回までの授業で、受講者自身が大学院で研究したいテーマの方向性をある程度固めることができていたので、６回目に研究計画書を扱ったときもスムーズに理解が進んだという声があった。最終回の大学院生ゲストは文系と理系１名ずつ講演をしてもらい、日本の大学院生のリアルな研究生活を知ることができて有益だったと感想があった。

独自の取組

日本の大学院や研究者、論文などについて、リサーチマップやグーグルスカラーなどの専門的なサイトを紹介し、受講者一人ひとりが自分自身で、日本の大学院について調べる作業を作った。
また、志望する大学院の教授・研究室、アドミッションポリシーについて各自で調べ、書かれている内容を理解する方法で授業を進行した。アドミッションポリシーの内容は抽象的かつ難解なものが多いので、十分に理解できていたか課題が残る部分もあるが、自身の志望する大学院について時間をかけて調べ、適切な情報をまとめることができていた。

学習効果・成果（総括）

授業開始当初は大学院進学理由がはっきりしない受講者も数名いたが、授業が進むにつれ、受講者一人ひとりが大学院で研究したいテーマについて向き合い、発表まですることができた。
受講者の声として、大学院で研究するテーマを探し、それを煮詰めることの大変さを実感した、日本に留学する前に準備ができて安心したという声があった。
第５回までの授業で、受講者自身が大学院で研究したいテーマの方向性をある程度固めることができていたので、６回目に研究計画書を扱ったときもスムーズに理解が進んだ。９回目には面接の動画視聴、１０回目には大学院生ゲストによる講演、というように毎回の授業がバラエティーに富んでいたので、アンケートの結果、受講者の満足度も高かった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

アークアカデミー新宿校

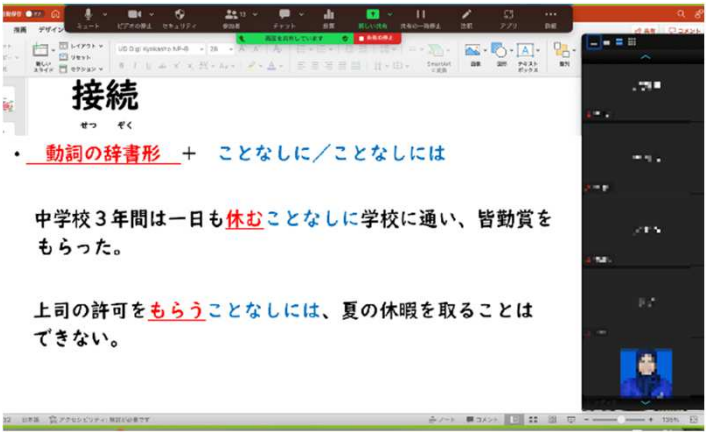
住所：東京都新宿区西新宿７－１８－１６東信西新宿ビル３階

実証概要

ARC ACADEMY アークアカデミー日本語学校

コース名	フリーコース《日本語能力試験Ｎ１コース》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・文型提示用パワーポイント ・参考教材『４５日間マスター日本語能力試験Ｎ１文法』三修社
受講者情報	受講者数合計９人（【内訳】渡日前留学生７人・国外留学希望（予定）者２人） 全員オンライン：各自が持つデバイス（全員ＰＣ）を使用。
授業概要	以下の流れで授業を実施した。 文型提示→用法・意味確認→文作成→確認テスト 第１回：～が早いか　他４文型 第２回：～かたわら　他３文型 第３回：～てからというもの　他４文型 第４回：①～きらいがある　他４文型 第５回：①～ともなしに　他４文型 第６回：①～たる　他４文型 第７回：①～とはいえ　他４文型



申請時点　【課題と目標】

・Ｎ１文法の知識不足、運用ができていない受講者が多くいる。
・既知文法との意味・使い方の違いを理解し、Ｎ１文法の理解を深める。

実証終了時時点　【成果と反省】

・Ｎ１文型を１０回授業を通して５０個導入、運用まで行うことができた。
・最終回の確認テスト結果より判断し、目標は達成できたと考える。

事業成果

オンライン × 読む

受講者の日本語レベルに差が見られたため、教師はパワーポイント資料に文型のルールや例文を準備し、受講者は資料に目を通して理解を深めた。教師はパワーポイント資料を提示しながら文法解説を実施し、適宜、受講者からの質問に対応した。毎回、授業終わりに確認テストを実施し、問題を読み、正解を選んでもらうことで定着を図った。
受講者のほとんどが教師の説明をよく聞き取り、理解することができていた。

オンライン × 書く

教師が文法の意味等を解説後、習った文型を使って文作成を行った。具体的には、受講者はＮ１レベルの文法解説（教師の説明）を聞きながら、ノート等にメモを残し、文法解説を聞いた後、文作成を実施した。選択問題に正答するだけではなく、文作成を行うことで定着を高めたいと考え、そのようにすすめた。
受講者のほとんどがＮ１文法の文作成を行うことができていた。時折文法の意味や表記に間違いがあった点が今後の課題である。

独自の取組

客観的評価として、各回終了時に、理解度をはかる内容確認テストを実施した。最終回（１０回目）の最終テストは確認テストにおいて正答率が低かった文型を選び、定着を高める工夫を行った。主観的評価として、コース終了後にアンケートを実施した。
【アンケート結果】
➡授業内容について（大変役立った６７％、役立った３３％）
　授業レベル（ちょうどいい６７％、やや易しい１６．５％、
　　やや難しい１６．５％）
　教師について（大変満足６７％、満足３３％）

学習効果・成果（総括）

授業終わりに「確認テスト」を実施することで理解度が高まるとの反応が多く聞かれ、確認テストの正答率も回を重ねるごとに上がった。受講者の取り組みは熱心で、質問も多く出た。
漢字の知識量に差が見られたため、授業で使用するパワーポイントの漢字ルビを増やした。そうすることで受講者も負担なく授業に参加でき、その結果、受講者が例文を音読する際も途中で止まることなく、スムーズに進めるようになった。
また、慣用的な表現を整理して提示したことで、ノートにもまとめやすいという声も多くあった。
総合的な日本語力の差（語彙力・文法の正確性）が目立ち、選択問題は解けるものの文作成を行うと、文法的に正しくない文（非文）が多く出た。オンラインのため、文作成のフィードバックに想定よりも時間がかかったが、時間の許す限り、全員に向けて解説・フィードバックを行い、少しずつではあるが、正確性を高めることができた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

アークアカデミー新宿校

住所：東京都新宿区西新宿７－１８－１６東信西新宿ビル３階

実証概要

ARC ACADEMY アークアカデミー日本語学校

コース名	スタンダードコース				
日本語レベル	A1	A2	B1	B2	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×４７回　計４，２３０分				

主な教材教具	・『みんなの日本語初級Ⅰ第二版　本冊』事務局提供のパワーポイント教材 ・授業担当教師作成パワーポイント資料 ・復習用のクイズ
受講者情報	受講者数合計６人（【内訳】渡日前留学生１人・国外留学希望（予定）者３人・海外就労者２人） 全員オンライン：各自が持つデバイス（全員ＰＣ）を使用。
授業概要	・事務局提供のカリキュラム・教材を使用。 【基本的な授業の構成】 話題導入→語彙・文型導入→意味確認→ドリル・教科書を用いた練習→ディスコース（タスク）→発表など各言語活動ごとに運用練習

申請時点　【課題と目標】

・日本語で授業を受けることに慣れ、余裕をもって日本語授業に参加できるようにする。
・日常生活に必要な語彙・文法・表現を用いてコミュニケーションができる。
・日本語の基礎を学び、Ｎ５相当の日本語力を身につけることができる。

実証終了時時点　【成果と反省】

『みんなの日本語』を用いて日本語の基礎を学ぶことができた。
ゼロレベルの受講者が多かったため、Ｎ５相当の総合的な日本語力の養成は厳しかった。

事業成果

オンライン × 読む

・短いテクストであれば、内容を１つずつ追い、必要な場合は読み直して理解することができるようになった。
・忘れてしまった文法や語彙があった場合には、自力で調べながら読むこともできるようになった。
・文字が読めなかった受講者も授業中に教科書を読む練習を取り入れたことで次第に読めるようになった。

独自の取り組み

・指定教材以外に、新出文型や新出語彙を使用する場面がわかるピクチャーカード、写真等を準備した。
・実践的に使えるタスクを準備し、ボトムアップによる実践を行った。場合によっては、受講者自身の身の回りにあるものも使用して活動を行った。
・発話機会を増やすため、基本練習でチェーンドリルを使用して互いに質問する機会を与えたり、応用練習でペアワークを取り入れたりして受講者間でやりとりする場を設けた。
・タスクでは、ディスコースを応用して、実践的な場面を想定し、生きた日本語を使う機会を増やすよう。
・授業の最後にその日の学習項目を整理し、教科書の例文を音読する時間を設け、教科書問題を使って復習を促したことで定着の効果は見込めた。

学習効果・成果（総括）

実証開始直後はゼロレベルの学習者と意思疎通が難しかったが、コースも２か月近く経ったころから、ゼロレベルの学習者と既習者の日本語力の差も小さくなり助け合いながら良い雰囲気で授業を進めることができるようになっていた。
時間的に運用練習まで行うことが厳しい回も多かったが、授業の最後は１５分程度時間をかけて必ず会話練習は行うようにしたため日本語を文レベルで発話することも可能となった。
ドリル練習は教師主体ではなく、学習者が個人やペアで考えた文・会話を中心に行うようにしていて、授業が進むにつれてアレンジもできるようになった。文字が読めなかった受講者も授業中に教科書を読む練習を取り入れたことで次第に読めるようになった。
入門～初級レベルの総合的な日本語運用を目指す授業を行う場合、定着度の細かな確認や読む・書くの活動の充実、習った語彙や文型の運用練習の機会を増やす等、さまざまな課題・改善の余地があることがわかった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

ＩＳＩキャリア外語アカデミー原宿校

住所：東京都渋谷区神宮前６－２５－１４
ＪＲＥ神宮前メディアスクエアビル６階

実証概要

コース名	観光コース				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・事務局作成オリジナル教材（観光コース） 授業の基本は既定教材により実施し、表現としてでてきた文型説明を補足する形で、ｗｏｒｄやパワーポイントを使用。
受講者情報	受講者数合計２４人（【内訳】国外留学希望（予定）者２４人） ９２％：自宅からＰＣで参加、８％：スマートフォンで参加 学習環境に関しては、受講者自信が概ねしっかりと環境を整えた上で参加しており、通信トラブルなどの問題は起きなかった。スマートフォンで参加している受講者の内１名が、授業前半は移動中のバスの中から参加した際に雑音が入る等していたが、大きな影響は無かった。
授業概要	既定教材による、９０分×１０回の観光コースを実施。 受講者は事前に会話動画（翻訳付き）を視聴することを前提とした反転授業で行った。 日本全国の各観光地を１授業で２か所ずつ紹介し、その観光地で使われる表現や語彙を学んだ。場面シラバスによる教材の特性上、どの課から初めても楽しく取り組める授業構成となっていた。 授業は、以下の流れで実施した。 　ー動画視聴によるヒアリング 　　語彙の確認、表現の確認、文型の補足 　　再ヒアリング、リピート、ロールプレイ、（時間に応じ）オリジナル会話練習、クイズ

申請時点　【課題と目標】

・オンライン及びハイブリッド環境での学習の双方向性に課題がある。オンライン上の受講者に対し、十分なコミュニケーションと学習成果を与えることがまだまだ足りていない。
・自国で待機している留学希望者に対し、日本への留学へより前向きになるような切っ掛けとすることが目標である。教師に対しては、オンライン及びハイブリッド環境におけるスキル向上が目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者募集の結果、今回は海外からのオンライン受講者のみであったため、ハイブリッド環境での検証はできなかった。しかし、オンライン授業を想定した教材使用により一定の経験を得ることができた。
オンラインのみの受講者を対象としたことで、発話やコミュニケーションの機会を増やすことができ、十分に学習成果が上がることを実感できた。
・日本文化への関心が深まるテーマの授業で受講者と良いコミュニケーションをとることができ、結果的に受講者の内１名がグループ校への留学を決めてもらうことができた。
教師もオンライン受講者のみに集中する環境での指導で、教材の共有のタイミングや、板書を使わずパワーポイント等で補足説明を行う手法の練度を上げることができた。

事業成果

オンライン オンデマンド ✖ 話す（やりとり）

オンデマンドで事前に受講者が視聴してきた教材をもとに、表現、語彙を確認し、教材の表現をベースに、受講者一人一人と旅行先で起きうる会話表現や語彙を使って練習を行った。学んだ表現を実際に使う場面を指揮して、オリジナルの会話を作り、日本語を産出したりコミュニケーションを取ったりする喜びを得てもらうことを心掛けた。また授業内での会話・やり取りの中では、観光地で起きうる会話について、受講者に質問し掘り下げたり、旅行先での経験を話すなど楽しい話題作りを心がけ、受講者本人のシチュエーションで話題を広げた。結果としてべてのレベルにおいて、既定教材通りの会話を一通り話すことができた。加えて、　Ａ１・Ａ２レベルでは教材の単語を入れ替えて話すＢ１レベルでは、オリジナル会話を作成し話すことができるようになった。

独自の取組

毎回の授業の流れとして、動画視聴により対象観光地の基本情報を知ってもらったが、それ以外に授業冒頭に動画で紹介されていないその地域の観光名所や、食事などを教師から補足説明する等、観光地・食文化・祭りなど、日本の文化へ関心を深めてもらう事を主眼に話題を提供することを心掛けた。また、来日経験のある受講者に体験談を話してもらった。加えて、個別カウンセリングで受講者の学習目的を把握し、今後の本人の来日に関する希望（留学・就職・観光）などについてのヒアリングをし助言を行うことで、受講者の興味を引き出し、来日への意欲を高めることができた。

学習効果・成果（総括）

予習・復習を前提とした反転授業実施により、限られた時間内で最大限の効果を高めることができた。特に、翻訳付きの教材であったこともあり受講者の理解を深めることに役立った。コロナ禍ということもあり、海外で日本語を勉強している方にとって、日本人と日本語で話す機会は貴重であり、どの受講者からも来日したいという強い気持ちを改めて感じることができた。本事業がより、来日への強い動機づけにつながったと考える。
開始前に課題として挙げられていた、教師のＩＣＴ関連スキルやオンライン授業のコツ（教材の共有のタイミングや、板書を使わずパワーポイント等で補足説明を行う手法）なども、回を重ねる中で習熟度を上げることができた。learningBOXについては、事前学習のパート、授業用のパートなど、直観的な操作がしやすく、最初の取り組みに対する障壁が低かったことも、受講者の継続的な受講につながった。自校のカリキュラムとは異なる内容で行ったため、当初は授業の実施方法に不安が見られたが、丁寧に打ち合わせや引継ぎを行うことで、校内で授業の内容と方法について理解が深まった。また、今回の教育活動を経験したことによって、自校の課題や改善の方法のよいきっかけにつながった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他 言語知識

ＡＲＣ京都日本語学校

住所：京都市中京区弁財天町２９７番地

実証概要

ARC ACADEMY　ARC京都日本語学校

コース名	フリーコース 《初級日本事情・会話コース（オンデマンド・オンライン）》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具

・オリジナルパワーポイント資料
　入国後すぐ直面するであろう場面を取り上げ、日本事情やそれに関連のある基本的な会話を練習させた。留学生が日本文化に溶け込みやすくなるよう支援する。授業日・時間は時差を考慮した。各回、まずクイズなどを取り入れて日本事情の確認を行い、会話の授業へと展開。会話は基本オンデマンド動画で確認しているので、最後は覚えて発表できることを目標とした。

受講者情報

受講者数合計３人（【内訳】渡日前留学生３人）

Ｚｏｏｍによるオンライン授業
２名はＰＣ、１名はｉＰａｄでの受講。

授業概要

事前に授業の要点をまとめた動画を見たうえで参加。
授業は以下の流れで実施した。
１）３０分ほど日本事情を紹介（英語・中国語翻訳付き）
　ー日本事情の確認
２）６０分　場面会話１種（会話提示→表現・語彙確認→会話練習→会話タスク）
　ー関連場面の導入と会話の再提示
　　語彙・表現の確認
　　提示した会話の練習（ミムメム、ペア練習）※動画とは異なる語彙を使い練習
　　発表
　　授業の理解を確認するための確認問題を実施

申請時点　【課題と目標】

・日本に関する予備知識が不足している。来日前に最低限知っておいてほしい日本事情や日本語表現などを習得してもらいたい。また、授業を通して日本に対する興味・関心を高めたい。
・日常生活で遭遇する場面において、日本語で簡単な会話ができるようになることが目標である。来日後の日本語学習の足がかりとし、継続的な学びに繋げる。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者は毎回表現を習得しようと積極的に練習に取り組んでくれた。また、日本事情では内容に関する質問、会話授業では「この表現は良いのか」などの質問もあり、日本に対する興味・関心を高めることはできたのではないかと感じている。

事業成果

オンライン オンデマンド ✖ 話す（発表）

日本の交通機関、食文化、京都の観光地、家を借りるなどのテーマに合わせて作成したパワーポイント教材を画面共有し、受講者とやり取りをしながら内容の確認をした。授業内の発表や教師とのやりとりにおいては、その日に指導した会話にアレンジを加えて発表してもらった。オンデマンドの動画をよく見て練習してきていたこと、受講者があまり多くなく発表の機会が多く取れたことから、授業の終わりには比較的滑らかに、ほぼ暗記して会話を発表することができていた。また、こちらの問いかけに対して、自身のことや自国のこと、日本事情を学習して感じたことなどを短文で答えられるようになった。
また、動画を事前に視聴してきているので、自分から話題を提供して発言してくれることもあった。

独自の取組

来日後すぐに役立ち、かつ日本での留学生活を始めるにあたり知っておくと良い日本文化・日本事情を紹介し、受講者が感じるであろう不安やストレスを緩和できるように努めた。
テーマ選びにおいて、弊校に在籍する受講者たちの様子から必要な情報、役立つ情報を決定し、受講者に寄り添えるように工夫した。
例えば京都の交通機関について説明する回では、切符の買い方、ＩＣカードでの改札の入り方などを１つずつ写真を示して紹介し、イメージしやすくした。
また、初回の「日本語の勉強を始めよう」では、日本人と外国での数字の書き方の違いなどを示したり、最終回では進学・就職のテーマを取り上げ入国前から進路について考えられるように工夫した。

反転授業ということもあり、事前に動画を見てきている受講者が相手だったので、＋αの情報を伝えたり、受講者の質問に答える時間を取るようにしたり、受講者の国の文化と比較してより理解が深まるような工夫をした。

学習効果・成果（総括）

教師側が教えたいことだけにとどまらず、受講者のニーズや受講者が遭遇しそうな場面を受講者目線で考えてテーマを選んだことで受講者の継続的な参加につながったのではないかと思う。
日本事情指導時は、時折体を動かして「やってみる」時間を設けた。受講者の楽しそうな様子や笑顔が印象に残っている。
反転授業用に教材を作成することが初めてで、通常の授業での教材とは大いに異なることに気付かされた。何をどう、どこまで示す必要があるのか模索しながらの作業だったが、とてもいい機会だったと考えている。
通常のボトムアップの授業では、受講者たちは予備知識がないので、必要な情報をすべて提示して指導する必要があるが、反転授業ではすでに予習として動画を見てきているので、どこを再度示して指導する必要があるのか、どこは省くのか、ビデオを見てきたことの確認はどのように行っていくのか（クイズなのか、教師が口頭で質問するのか、会話文を穴抜き問題にしてブランクに入る語彙を受講者に言わせるのか）、授業に入っている教師と毎回相談しながら作成していった。３回目ぐらいからは受講者たちの様子も参考に毎回試行錯誤した。

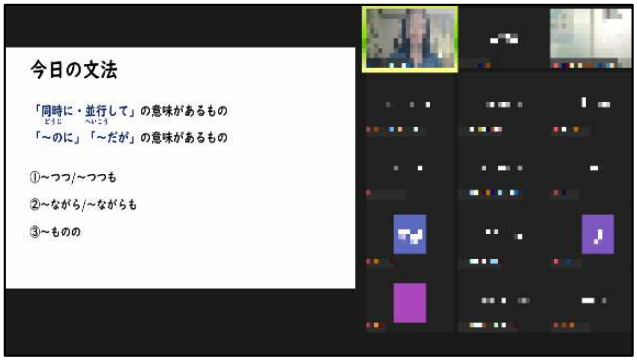
学校法人ＡＲＣ学園　ＡＲＣ東京日本語学校

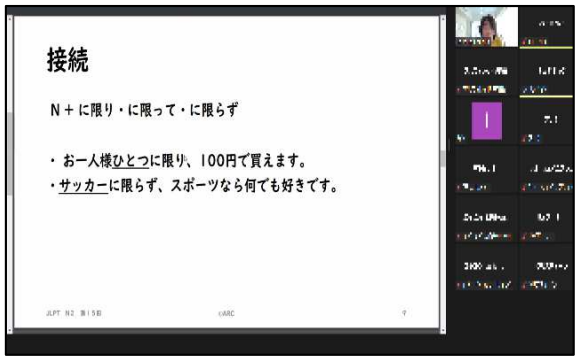
住所：東京都文京区後楽２－２３－１０

実証概要

コース名	フリーコース《日本語能力試験Ｎ２対策》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・当校で実施した日本語能力試験対策講座をもとに作成したオリジナル教材（パワーポイント）
受講者情報	受講者数合計１６人（【内訳】国内在籍留学生１２人・国外留学希望（予定）者４人） ・コース開始当初は、当校の留学生とオンラインの受講者を合わせたハイブリッド形式で実施した。 ・２回目以降の授業は感染症対策のため、オンラインのみの実施とした。 ・受講者はＰＣを使用して受講しており、接続状況も良好であった。
授業概要	各回の指導内容は以下の通り １．「～において」など７文型 ２．「～たとたん」など６文型 ３．「～てはじめて」など６文型 ４．「～つつ」など７文型 ５．「～にこたえて」など４文型および復習・聴解 ６．「～として」など７文型 ７．「～というと」など６文型 ８．「～限り」など６文型 ９．「～にきまっている」など８文型 １０．「～ないことはない」など３文型および復習・聴解





申請時点　【課題と目標】

・中国語圏の受講者は、読解に比べて言語知識（特に語彙と文法）の成績が伸び悩む傾向にあることが課題である。
・日本語能力試験（Ｎ２）によく出題される文法および文法を理解する上で必要な語彙を知り、言語知識分野を強化して、大学入試に向けた知識の土台を形成することが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・日本語能力試験（Ｎ２）に必要な語彙を補強しつつ、文法の強化を行うことができた。
・日本語能力試験Ｎ２に出題される文法の指導を行い、受講者は文法の接続や意味、用法などを身につけることができた。
・文法を理解する上で必要な語彙を強化し、文作成などに使用できる文型が増えた。
・コース開始時に比べて、使用できる文型が増えた。
・類似文型が増えるにつれて、意味や用法で混乱する受講者が一部いた。

事業成果

オンライン × 聞く

聴解問題は事前の準備なしに聞かせ、学習した文法が使われている場合には、意味や使われ方の確認を行った。間違いが多い問題は複数回聞かせ、わからなかったポイントを自覚化させた。そして、問題実施と答え合わせが単調にならぬよう、受講者の発言を促しながら授業を進めた。
結果、既にＮ２レベルの学習を始めている受講者に関しては、同レベルの聴解問題を解く際のポイントを理解し、問題実施に応用できるレベルになった。Ｎ２レベルの学習を始めて日が浅い受講者に関しては、未習語彙や文法が多かったが、問題を解く際のポイントの概要は理解できた。

独自の取組

受講者が作成した文を発表した際に、類似文型との混乱や理解を間違えている箇所があった場合には、再度説明を行った。誤用があった場合には、受講者同士でどの部分が間違えているのか、どのように訂正したらよいかなどを考えさせ、教師の解説を一方的に聞くだけではない授業展開を心掛けた。
結果として、勘違いやケアレスミスなどはあるものの、学習した語彙や文法を使用して、受講者自身でオリジナルの文を作成できるようになった。

当日学習した文法を使用して文作成をすることはできるが、語彙が不足しているために文法レベルと語彙レベルが合わない文を作ってしまう受講者がいた。その際は、適当なレベルの語彙を提示し、使い方を解説するなどの工夫を行った。

学習効果・成果（総括）

・コース開始時はハイブリッドにて運営したが、ハイブリッド形式ではオンラインで参加している受講者の特徴が教師から把握しにくく、進めにくかったとの意見があった。ハイブリッド形式では、オンライン参加の受講者と対面参加の受講者に均質の授業を提供することが困難であり、ハイブリッド用の機材を設置するのも手間がかかるため、オンラインのみか対面のみの授業展開が望ましいという気づきがあった。
・事前に授業で使用するパワーポイント資料をlearningBOX上にアップロードし、学習する文法を予習できるようにした。その結果、授業についてくるのが困難だと思われるレベルの受講者もコース修了まで受講を続けることができた。
・コース修了時のアンケートでは「教科書以外の知識を身につけられた点がよかった」という趣旨のコメントが見られた。市販の教材のみで学習したのでは得られない知識やテクニックを指導することができたと言える。今後も試験対策関連のコースを運営する際には、受講者が日本人教師から直接教わるメリットを見いだせるような授業を展開したい。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

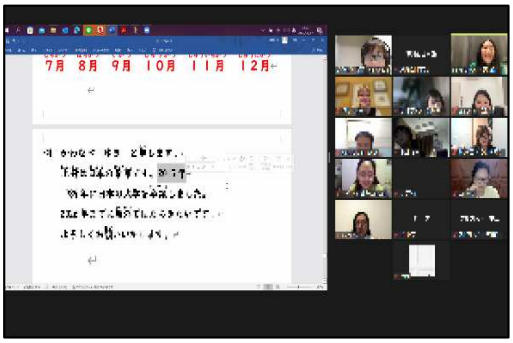
学校法人ＡＲＣ学園　ＡＲＣ東京日本語学校

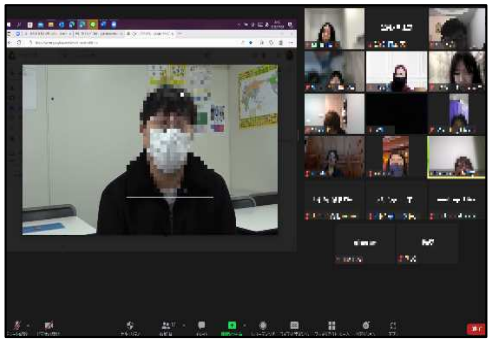
住所：東京都文京区後楽２－２３－１０

実証概要

コース名	フリーコース《日本での就職活動と日本語》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・校内での就職支援活動をもとに作成したオリジナル教材（パワーポイント） ＜基本的な授業の構成＞ １.話題導入、アイスブレイク　２.講義　３.表現練習　４.まとめ ※発表については右記の内容を追加。　・自己分析　・自己ＰＲ作成　・発表
受講者情報	受講者数合計１５人（【内訳】渡日前留学生２人・国外留学希望（予定）者１３人） 全ての回をオンラインで実施した。受講者は概ねＰＣを使用して授業に参加していたが、一部はスマートフォンで参加していた。また、カメラがＯＦＦのままで、呼びかけても反応がないなど、出席しているのか不明な場合もあった。
授業概要	＜カリキュラム概要＞ １．在留資格、外国人の就労先、必要とされる日本語力 ２．日本でのキャリアプランの検討 ３．就活で必要なマナー、身だしなみ ４．日本の就職活動の流れ ５．仕事の探し方 ６．仕事を選ぶ際に必要な日本語力 ７．応募書類の作成 ８．面接で必要な日本語力 ９．自己分析と自己紹介 １０．内定後の流れ、入社までの準備





申請時点　【課題と目標】

・日本での就職を視野に入れている受講者がいるものの、実際には就職活動の流れが理解できていなかったり、動き出しが遅い受講者がいる。
・将来的なキャリアプランも含めて、日本での就職活動のイメージを持てるようにすることが課題。
・入国前に日本での就職活動の仕方を学び、入国後の就職活動とキャリアプランに活かせるようになる。

実証終了時時点　【成果と反省】

・日本での就職活動について、準備期間や内定までにかかる時間など、早めに活動を開始する重要性を伝えることができた。
・日本語学習経験があり、日本での留学や進学を現実的に捉えている受講者にとっては、自身の今後のキャリアプランを再考するきっかけとなるコースを提供できた。
・日本での就職活動が自国での就職活動と大きく異なることを意識づけすることができた。
・実際に就職活動をする際の準備、流れ、ポイントを理解することができ、入国後に必要な活動をイメージすることができた。

事業成果

オンライン × 読む

講義で話される話題に関連したデータや情報をパワーポイント資料あるいはウェブサイトなどの生教材を使用して提示した。また、講義を聞きながらそれらの情報に目を通し、理解が促進するように授業を進めた。
内容がわからない場合は、適宜質問をしたり、自力で調べるなどして、理解することができた。

オンライン × 話す（発表）

就職活動で求められる自己分析の方法を指導し、実践した。
また、自己ＰＲを作成し、発表する活動を行った。一部の受講者は形通りに発表するのみで、表現したい内容について明確に詳しく述べられるレベルには到達しなかったものの、授業内で指導された自己分析方法をもとに自己ＰＲを作成し、自分自身のことについて発表することができた。教師からの質問に対して、自身の興味があることなどをわかりやすく述べることができた。

独自の取組

就職率や就業者の国籍といったデータを提示し、外国人の就職活動の現実を提示、就職フェアなどの映像やインタビューを見せて就職活動のイメージを膨らませる、実際に外国人の採用を行っている企業のホームページなどを生教材として使用する、自力で求人を探し、募集内容を確認できるように、現存する就職サイトなどを紹介する等、様々な工夫を行った。
日本での就職活動を現実的に捉えられている受講者は、日本で就職するために必要なスキルを知り、なぜそのようなスキルが求められているのかを日本社会の背景に照らして理解することができた。

学習効果・成果（総括）

・日本語力の強化よりも日本事情や日本理解に重点を置いたコースであったため、多様な技能を伸ばすことができたとはいいがたいが、聴解能力や資料を読み取る読解能力、やりとりや発表に係る日本語能力には一定程度の進歩が見られた。
・コース開始当初は教師が話す日本語が聞き取れなかったり、授業中に思うように発言ができない場面も見られたが、コース終盤では各国の就職活動事情を話したりするなど、積極的な発言が見られた。
・コース開始時は、日本での就職活動の現実がわかるデータなどを多く提示していたが、受講者にとっては会話練習や活動のほうが魅力的なようであると教師から意見があった。よって、コースの途中からはデータや講義の時間を減らし、日本語表現の練習、面接練習など実践的な活動を多く取り入れた。結果として、コース修了後の実施したアンケートでは、全受講者がコースの内容について「満足」「どちらかといえば満足」と回答しており、受講者のニーズにあったコース展開と軌道修正ができたと言える。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ＡＲＣ学園　ＡＲＣ東京日本語学校

住所：東京都文京区後楽２－２３－１０

実証概要

コース名	フリーコース《日本事情と日本語表現（中級）》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回３０分×１０回　計３００分				

主な教材教具	・本事業において制作したオリジナル動画及び内容確認クイズ ＜動画の構成＞ １．本時の内容紹介 ２．講義
受講者情報	受講者数合計１０人（【内訳】国外留学希望（予定）者１０人） ・動画はlearningBOXにアップロードし、受講者は個人のデバイスで視聴した。 ・どのようなデバイスを使用していたかは調査を実施していないため、不明である。
授業概要	作成した動画のコンテンツは以下の通り。 １．日本の地名と漢字の読み方 ２．オノマトペ（擬音語・擬態語） ３．メールの書き方 ４．話しことばと書きことば ５．日本の世界遺産 ６．読点の使い方 ７．カタカナの使い方 ８．日本でのアルバイト ９．待遇表現 １０．慣用表現

申請時点　【課題と目標】

・中級レベル以上の未入国の受講者を対象にしたコース並びにオンデマンド教材が不足している。
・日本事情を学び、日本語表現の多様さを理解して、来日後の日本語学習を促進する。
・中級以上の未入国の受講者に対して、日本留学へのモチベーションを維持するとともに、母国での授業では得られない日本語表現の知識を増やす。

実証終了時時点　【成果と反省】

・中級レベル以上の未入国の受講者を対象にしたオンデマンド教材を制作し、提供することができた。
・一般留学コースでは扱いきれない日本事情や日本語表現の多様さについてコンテンツの中で解説し、受講者に提供することができた。
・コース終了時に実施したアンケート結果では、「日本へ留学したい」「日本で就職したい」「母国で日本語の学習を続けたい」と回答している受講者が多く、日本語学習や留学、就職へのモチベーションを維持することができたと言える。

事業成果

オンデマンド × 聞く

受講者は、毎週金曜日にlearningBOX上にアップロードされる動画（３０分程度を２～３本に分割）を視聴した。学習のリズムをつくるため、動画のアップロードから１週間以内に視聴することを指示した。また、内容確認クイズは１人あたり５回まで解答可能とし、講義内容を復習しながら解答するように案内を行った。
動画では中級程度の受講者が理解できるレベルの日本語が使用されており、不明点は各自で確認しながら学習を進めることとした。
各回終了後に内容確認クイズを実施し、評価を行った。講義内容や講義で使用される日本語レベルが難しいと感じていた受講者もおり、そうした受講者にとっては講義内容が理解できない部分もあったと思われる。しかしそれ以外の受講者は中級程度の日本語で話される講義内容を聞き取り、理解することができた。

オンデマンド × 日本事情 日本理解

留学コースでは取り上げきれない話題について動画でふれ、受講者は各自で視聴学習を行うことができた。中級以上の学習を進めるうえで必要な、豊かな言語使用を実現するための日本事情や言語使用の背景を概ね理解することができた。

独自の取組

・各回の視聴後に、理解度をはかる内容確認テストを実施した。複数回受験して合格している受講者もおり、個人のレベルや学習ペースにあった方法でコンテンツの視聴や理解を促せたと言える。
・コース修了後にアンケートを実施した。継続受講者は全員回答しており、今後のコース運営やオンデマンド教材開発に役立つ回答が得られた。

学習効果・成果（総括）

・コース修了後に実施したアンケートでは、「プログラムが興味深く、トピックが豊富で、授業頻度もよかった」などのコメントが得られた。
・オンデマンド形式のコースだったため、受講者にとって都合のよい時間に、自身のペースで学習を進めることができた。
・同じ動画を何回も視聴して内容確認クイズに取り組んでいる受講者もおり、各自の理解度に合わせた学習を進めることができたと言える。

学校法人ＡＢＫ学館　ＡＢＫ学館日本語学校

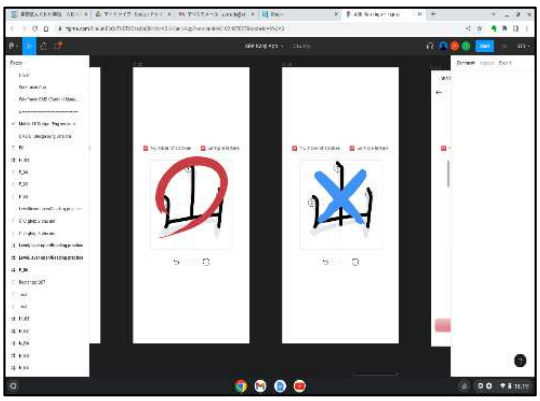
住所：東京都文京区本駒込２－１２－１２

実証概要

ABK COLLEGE　学校法人 ABK学館　ABK学館日本語学校

コース名	フリーコース 《「漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用したオンライン日本語クラス》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×７回　計６３０分				

主な教材教具	・『ＴＲＹ！文法から伸ばす日本語　日本語能力試験Ｎ５』e-Books（アスク出版）、『ＴＲＹ！文法から伸ばす日本語　日本語能力試験Ｎ４』e-Books（アスク出版） ・上記教材を補足する自主教材（学習対象漢字の複数の読みを含む短文のシート。オンライン授業中に、音読練習などを教師の指示で実施） ・今回、新たに開発をした初級漢字についての「漢字YouTube」ならびに「漢字アプリ」
受講者情報	受講者数合計４３人（【内訳】渡日前留学生４３人） 今回の受講者は、ミャンマー現地にいる、ミャンマーの受講者達で、それぞれ自宅のWi-Fi環境、自分のＰＣなどから、Ｚｏｏｍによるオンラインクラスを受講。受講者が利用するデバイスは、カメラオンをしている受講者の様子から、ＰＣ利用が７割、スマートフォン利用が３割であった。
授業概要	初級前半（Ｎ５レベル）クラス＆初級後半（Ｎ４レベル）クラス 『ＴＲＹ！文法から伸ばす日本語　日本語能力試験Ｎ５　電子書籍」ならびに自主教材を使用し、漢字指導に特化したオンライン授業を行った。１回、９０分、全７回。 **＊初級前半（Ｎ５レベル）**・・・学習対象漢字を、複数の読みを含む短文の例文となっており、受講者はペアを組み、教師の指示で音読などをさせた。また、受講者が興味を持つように、クイズ形式やパズル形式で、漢字を紹介したり、何の漢字か当てさせたりした。 **＊初級後半（Ｎ４レベル）**・・・学習対象漢字を、複数の読みを含む短文の例文となっており、教師が模範の読うみを実施し、受講者はペアを組み、教師の指示で音読などをさせた。また、受講者が興味を持つよに、クイズ形式やパズル形式で、漢字を紹介したり、何の漢字か当てさせたりした。 **＊共通**・・・本プロジェクトで開発された漢字アプリと漢字YouTubeにて、練習したり、復習できるようになっており、授業実施後、受講者は、同YouTube動画を見ながら読み方や書き方を復習し、実際、同アプリにて、書く練習を行った。



申請時点　【課題と目標】

・オンラインによる日本語教育では、特に、非漢字圏の受講者で、日本語未習者や初級者が漢字を習得すること、また、机間巡視できない事などから、漢字のスムーズな指導ができないことが課題である。今回、開発する「漢字YouTube」と「漢字アプリ」により、これらの課題が解決できるか検証したい。
・非漢字圏の受講者で、日本語未習者や初級者を対象に、漢字という、習得に極めてハードルの高い要素を含む日本語学習について、YouTubeやアプリなど、スマートフォンに慣れ親しんだ若者が利用しやすいメディアを活用する事で、日本語習得のハードルを下げる事を目標とする。

実証終了時時点　【成果と反省】

・今回、ミャンマーの受講者を対象に、漢字に特化したオンラインクラスの実施と、本プロジェクトで開発した「漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用してもらった。最終アンケート調査の結果、これらを活用することで苦しい漢字学習が「簡単」だと思うようになったこと、また、漢字が理解しやすくなったことがわかった。
・オンラインによる日本語教育でも、今回、本プロジェクトで開発した「漢字YouTube」や「漢字アプリ」を使うことで、教師の漢字指導の負担を軽減する事、受講者も漢字学習をスムーズに理解できることに効果があると分かった。

事業成果

オンライン × 読む

初級漢字について、自主教材により、複数の読み方を含む短文を音読させたり、漢字のへんやつくりなどの部分をパズルにして、どのような漢字かを当てさせるゲームなどを実施した。その結果、本講座開始時に実施した試験の受験者合計平均点は、開始時が９２．８％、終了時は、９６．１％と、平均３．３％の改善が見られた。

オンライン × 書く

漢字YouTubeの動画により、漢字の読み方と書き方を復習、その後、漢字アプリにより、スマートフォンに、指で、実際に、漢字の書き方を練習させた。
その結果、本講座開始時に実施した試験の受験者合計平均点は、開始時が８５．８％、終了時が９３．３％と、平均７．５％の改善が見られた。指導をした教師からも、本講座受講前と受講後を比較すると、初級漢字の「読む」、「書く」について、試験結果以上に、使いこなす事ができるようになったと思われるとのコメントがあった。

独自の取組

「漢字学習についてのアンケート」を、本講座開始前と本講座開始後に行い、漢字学習について、どのような意識変化があったか回答・記述してもらった。　本プロジェクトで開発した「漢字YouTube」と「漢字アプリ」を活用することで、苦しい漢字学習が、「簡単」だと思うようになった事、また、漢字が理解しやすくなった事が、最終アンケート調査の結果、判明した。「日本語初級前半（Ｎ５レベル）」では、「漢字学習が簡単」と答えた受講者が、本プログラム終了後、１２．９％改善、また、「理解しやすくなった」と答えた受講者は３４．３％改善した。一方、「日本語初級後半（Ｎ４レベル）」では、「漢字学習が簡単」だと答えた受講者は、本プログラム終了後、２６．７％改善、また、「理解しやすくなった」と答えた受講者も２６．７％改善している。

学習効果・成果（総括）

独自の取組に記載のアンケート結果からもわかるように、若者が利用しやすいメディアを活用した漢字学習は効果を上げる可能性がある。オンライン授業で指導する指導者から、「漢字YouTube」や「漢字アプリ」を利用する事で、採点の手間がなくなるだけでなく、ポートフォリオとして蓄積されている受講者の漢字学習状況を簡便に確認できる事によって、指導がしやすくなるなど、コメントがあり、指導効率と指導効果を高める事に役立つと分かった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人岡学園　大阪文化国際学校

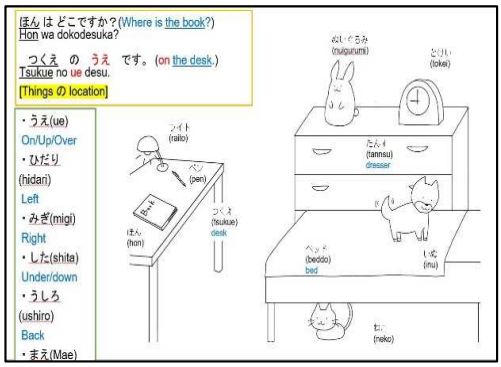
住所：大阪市北区同心２－１１－１２

実証概要

学校法人　岡学園
大阪文化国際学校

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・事務局作成オリジナル教材(観光コース) ・本校が作成した上記オリジナル教材の補助教材(主にオリジナル教材で取り上げられている文法を１つか２つ取り上げ、導入や練習問題を作成した。またそれに伴う追加語彙やまとめの穴抜き会話文を作成した) 【教具】オンライン授業を実施するためのＰＣ
受講者情報	受講者数合計１２８人（【内訳】国外留学希望（予定）者１２８人） 受講者１２８名は全て国外在住者で、授業は観光コースが提供しているオンデマンド教材とオンラインをあわせて行った。 開校前オリエンテーションを実施した際に、参加条件に「スマートフォン不可。ＰＣ必須」と案内を行った。
授業概要	本校はインドネシアの５つの高校とポーランドなどヨーロッパの受講者を対象に、観光コースのクラスを９つ開講した。 ヨーロッパの受講者の中には数名、日本語学習経験がある者がいたが、その他の受講者は全てひらがな・カタカナが読めないゼロ初級の者が多かった。そのため、授業は可能な限り直接法を取りながら、ペア練習や穴抜き文の穴埋めなどの細かい指示は英語で伝えた。また、事業開始当初はオンデマンド教材の内容全て(会話×４、言葉×４、表現×４)を消化しようと試みたが、内容が多く、これを全て消化しようと考えると簡単なリピート練習を含めた読み合わせしかできないと判断したので、使用する内容は会話を１，２つに絞り、それに付随する言葉と表現のみにした。また、観光コースの手引ではリピート練習が主に紹介されていたが、リピート練習をメインに据えてしまうと受講者が退屈するということも授業を重ねて感じたので、文法や語彙を取りあげて練習する補助教材を作成した。



申請時点　【課題と目標】

・旅行などの来日時に必要となる簡単な会話ができるようになること、場面で必要になるテンプレートを覚え、自分の状況にあった簡単な会話ができるようになることが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者自らが考え、文を１から作るということは難しいが、フレーズを丸覚えし、それを言うことは少しできるようになっていた。
・テンプレートを覚え、それを伝えるということはできるようになっていた。
また、語彙も追加で補足したため、「食べたい/買いたい/大きい/小さい/おいしい/あまい」なども使えるほどに積み上がっていた。

事業成果

オンデマンド ✕ 話す（発表）

オンデマンド教材と補助教材による語彙と表現の確認を行った。
初めて見る文では口が回らずたどたどしい読み方だったが、オンデマンド教材を使ったリピート練習と補助教材を使った練習問題(リピート練習含む)をさせると、その日の最後には正しい発音や抑揚で話せるようになっていた。

オンデマンド ✕ 日本事情

オンデマンド教材のナレーションと補助教材による日本事情の紹介およびインターネットによる画像検索で具体的な場所やものを提示しながら授業を行った。「ここまで勉強した地域で今行ってみたいところはどこか」という質問をしたときに、ナレーションで得た知識をもとに「〇〇がやってみたいから△△へ行ってみたいです(英語交じりの日本語で)」と答えていた。このことから、オンデマンド教材のナレーション部分で日本の知らなかった部分を知り、来日の動機づけを行えていたように感じる。

独自の取組

定着を図るために、オンデマンド教材で取り上げられている言葉や表現を取り上げ、代入練習や穴抜き文、絵を使った問題などを作成し補助教材として利用した。オンデマンド教材では表現の紹介だけでどのように使うかなどの運用方法がわからないことから作成を行った。また、授業開始当初のリピート練習を主にした授業では受講者が退屈してしまい、参加意欲の低下が起こったためそれを解決することも目的であった。
効果としては、全クラスで活用したため、「補助教材を使わなかったとき」との比較はできないが、回を重ねるごとに補助教材で取り上げた表現が使える受講者が増えていった。特にお金の数え方(〇〇円)や物の数え方(１つ２つ)など、来日し日本語学校に在籍している受講者でもよく間違えるような項目でも、今回のこの方式で一定の定着が見られた。

学習効果・成果（総括）

観光コースでは実証事業終了後に受講者の手元に残る教材がなく、さらに１回分の授業で取り扱う表現や語彙が多すぎたことから、独自にオンデマンド教材の内容をピックアップし、１つの表現に割く時間を多く取った。「広く浅く」ではなく「狭く深く」することで、定着率を上げ、少しでも受講者の中に残るものを増やそうと考えた。その結果、「積み上げ」による定着が可能になり、「Ｖたいです」「〇〇はどこですか」「これは何ですか」「１個２個３個・・・」「〇〇円です」など、旅行で必要になるフレーズは、回を増すごとに使えるものが増えていった。受講者の反応も、文を読んでもらうリピート練習よりも代入練習で作ってもらった文を評価するほうが満足感のある反応が見られた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

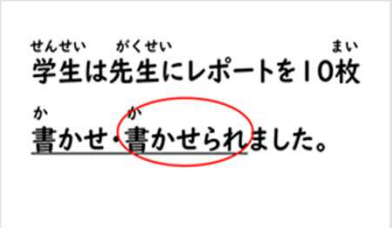
学校法人アジアの風　岡山外語学院

住所：岡山県岡山市北区舟橋町２－１０

実証概要

コース名	フリーコース《初級文型オンライン用教材作成》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×５回　計４５０分				

主な教材教具	●メイン教材『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ(改訂版）』電子版 ●サブ教材『文化初級日本語Ⅰ・Ⅱ(改訂版）』学習項目に合わせた練習用パワーポイント教材、及びプレイスメントテスト・実力確認テスト（アチーブメントテスト）
受講者情報	受講者数合計１４人 （【内訳】国内他校在籍留学生２人・国外留学希望（予定）者２人・海外就労者１０人） ・全ての回を完全オンラインで実施した。 ・受講者は各自もしくは所属先が持つデバイスで受講した。 ・受講者が使用する媒体は日によって異なる場合があるものの、ほぼＰＣでの参加であった。
授業概要	＜基本的な学習進度＞ １．プレイスメントテスト（事前に実施） ２.授業　①：L３１-５受身（有情）・L３３-２使役・L３４-１使役受身 ②：L３２-１受身（非情） ③：非常の受身を使用したパワーポイントによるプレゼンテーション授業「私の国」 ④：L３０-１・２敬語(尊敬語)　⑤L３０-３敬語（謙譲語） ３.実力確認テスト（アチーブメントテスト、事後に実施）※プレイスメントテストと同じ。 ＜基本的な授業の構成＞ １.オープニング（挨拶・アイスブレイク）　２.導入　３．ポイント説明　４.練習 ５.応用練習　６.会話練習　７.まとめ　８.今日の課題（宿題）



申請時点　【課題と目標】

・オンライン授業の需要が増える中で、日本語教師側と受講者側の双方の観点から、対面授業と同等の学習ができるどうか、授業やテスト、受講者アンケートなどの実証を通じて確認したい。
・来日まで母語で日本語を学習することが多かった受講者に対し、日本語ネイティブ教師の授業を提供して、日本語を使う環境に慣れてもらうことが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

●日本語教師
・担当日本語教師はコロナ禍の数か月オンライン授業の経験があったが、今回の実証事業によりＬＭＳ（learningBOX）の理解度やＩＣＴスキルが向上した。従い、教師一人でオンライン授業にも対面授業と同様の対応ができるようになったと言える。
●受講者
・オンライン授業でも対面授業と同等の学習効果が見られた。最後まで日本語ネイティブ教師の授業を積極的に受講し、途中で離脱する受講者もなく終了することができた。

事業成果

オンライン × 話す（発表）

学習した文型を使用して、各自がパワーポイントを作成し、教師や関係者の前でプレゼンテーションを実施した。宿題の発表の時も、話す姿勢、発表をする時の流れなども確認をしながら進めた。
相手に伝わる発表を行うために、アクセントやイントネーション、ポーズ、プロミネンスなどの練習も継続して行った。教師は受講者同士が日本語で意見が伝えられるように協働学習の場を設け、日本語の使用を促した。
上記活動の結果、提示されるレベルにおいて、ほどほどの流暢さで、ある程度の長さの説明や報告ができるようになった。短い回数の授業にもかかわらず受講者の吸収が早く、取り組む姿勢だけでなく発表のスタイルも『伝わる発表』に変わった。

オンライン × 読む

宿題の「受身・使役・使役受身」を使用し、受講者が記述した「私の最悪な一日」（４００字）という作文を画面共有して、各自発表をした。わかりにくい言葉や表現はメモをするように促した。理解できない表現や語彙があった場合には、聞き返しができたり、自ら調べられるようになった。日本人（日本語）独特の表現も理解できるようになった。

独自の取組

授業内で教師が使用する練習用パワーポイント教材の作成。オンライン教育に向けたパワーポイント作成に取り組む過程で、作成手順・作り方・担当項目などをまとめたレジュメを配布し、説明を行ったことにより、パワーポイント作成担当者全員に意思統一がなされた。教材作成の観点において、クオリティーの均一化ができている点が評価できる。
５回にわたる授業では該当する項目のパワーポイントを使用して授業を行ったが、授業を行うクラスのレベルに合わせてカスタマイズができるため、受講者の反応も大変よかった。
客観的に評価できるテストによる個人評価と分析（テストは受講前と５回目の授業時実施）を行った。受講した１ヶ月で平均点が２．９点上がり、合格者も３名増えた（事前９名→事後１２名）ことから、一定の効果があったことがわかる。

学習効果・成果（総括）

Ａ２終了レベルの受講者が来日後スムーズに対面授業に移行できるよう、Ａ１・Ａ２レベルの基礎固めがオンライン授業でできる独自教材（練習用パワーポイント授業を行った。プレイスメントテストの結果から習得が困難な項目を抜き出しその項目の教材を受講者のレベルと人数に合わせカスタマイズし使用した。このことにより、受講者の理解と反応が早く、スムーズな授業展開が行えた。 作成した 練習用 パワーポイントを利用して、国で学習した文法項目の復習を 行う ことで、 過去にインプットされたものの記憶を呼び起こせたり、誤って理解していたことがクリアになったりした点もよかったとの 受講者からの声も寄せられた 。 また、教師主導の復習だけにとどまらず、受講者自らが考えたことを発表するアウトプット中心のタスクを取り入れた。タスクの一環で、「私の国」プレゼンテーション時には、受講者の関係者（現在籍教育機関の教師・所属先の上司等）を招待し、その前で発表・質疑応答を行い、そしてアドバイスや感想をもらった。この試みは受講者の日本語学習に対するモチベーションが上がり、積極性が増すという効果があった。関係者からも実際の授業に参加でき、普段と違う受講者の堂々とした声や生き生きとした表情が見られてよかったと好評だった。 本コースは教材作成がメインだったので、実証授業時間が５回と少ない回数しかできなかったが、今後の通常授業の中で作成した教材を活用していきたい。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人アジアの風　岡山外語学院

住所：岡山県岡山市北区舟橋町２－１０

実証概要

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具

・事務局提供の教材を利用。
【受講者用】　①事前学習用翻訳付き動画（英・中・越）
【教師用】　①授業用日本語版動画　②教師用マニュアル
③ナレーション日本語スクリプト　④授業用日本語版ＰＤＦ　⑤シラバス・表現・語彙一覧表
・公的に提供されている観光関連動画を補助教材として利用した。

受講者情報

受講者数合計１２人（【内訳】国外留学希望（予定）者１１人・その他１人）

・learningBOX上にある事前学習用動画（オンデマンド教材）の視聴を全受講者に対して課し、授業については全ての回を完全オンラインで実施した。
・受講者は各自が持つデバイス、所属学校・組織が持つデバイスなどで受講した。
・受講者が使用する媒体は日によって異なる場合があることもあったが、基本的にはＰＣ使用者が３０％、スマートフォン使用者が７０％程度であり、タブレットは０％だった。

授業概要

・事務局提供のカリキュラム及び事前学習用動画を使用した。

＜基本的な授業の構成＞
１.オープニング（挨拶・アイスブレイク）２.場所紹介　３.会話１　４.言葉１
５.会話２　６.言葉２　７.表現２　８．方言　９.クイズ　１０.まとめ

・観光日本語授業マニュアルを参考にしながら、基本的には指定教材のＰＤＦをパワーポイントに変換したものを使用して、授業を行った。
・各課で表現（文法）や言葉（語彙）の導入をした後、会話の確認を行った。
・授業用動画や教師が読み上げたものをリピートした後、ペアで感情を入れて練習をした。
・事務局提供教材以外に外国人がその場所で興味を持ちそうなお勧めポイントを取り入れた。

申請時点　【課題と目標】

・オンライン授業の需要が増える中で、経験ある教師数を増やし、スキルを向上させたい。
・未入国の受講者に対するフォローを十分に行う必要がある。
・教師：オンライン授業技術スキルの習得・向上をさせることが目標。
・受講者：来日後に役立つ日本事情について受講者に親しんでもらう。

実証終了時時点　【成果と反省】

【日本語教師】
・担当日本語教師はコロナ禍の数か月オンライン授業の経験があり、本事業で授業を実施したもののオンライン配信アプリ（Ｚｏｏｍ）やＬＭＳ（learningBOX）の操作スキルに未だ個人差が見られる。
・担当教師全員がＩＣTの知識を身に付け駆使するようになったが、オンライン授業を対面授業と同様に一人で何でもできるというほどの自信がついたとまでは言えない。一方で「オンラインの利点を生かした授業」を考えることはできるようになった。
【受講者】
・全員授業中は積極的に参加はしていたが、出席率・動画視聴率等１００％は達成できなかった。日本文化をさらに深く興味を持ち、来日後日本の観光地へ行きたいというモチベーションがさらに高くなったようだった。

事業成果

オンライン × 読む

受講者が日本語の発音や発話スピードに慣れるように、事前学習用動画を見る際には、リピートやシャドーイングも同時に実施するように指導した。教材の語彙・表現・会話をルビやローマ字表記の助けを借りながらも、音読できるようになった。また、観光シーンにおいて、よく目にする注意書きや掲示などで学習したものを、教材上では理解することができるようになった。

オンライン × 日本事情

・授業を通して日本文化や日本事情への理解を深めるために、各回の授業で公的に提供されている観光関係の動画なども活用し、現実の日本の観光地が伝わるようなものを準備した。
・コースが１０回と少なく、違う地方や場所をもう少し詳しく学びたいと話す受講者もいたことへの対処ができなかったことは今後の課題である。しかし、オンライン授業を通して日本事情への理解を深めることができ、日本留学への動機づけが高められた。

独自の取組

・コミュニケーション力を伸ばすことを第一に考え、毎回のブレイクアウトルームでの会話練習（本文を読む）ではできるだけ違う国の受講者同士でペアを組ませた。
・会話文を作成するタスクについては、上のレベルの受講者は違う国の受講者同士と、下のレベルの受講者は同国人同士とでペアを組ませて、必要に応じた心的負担を軽減する配慮を行った。
・違う国の受講者間でのコミュニケーションが徐々に増えるつにつれ、クラス内の雰囲気がよくなった。

学習効果・成果（総括）

レベル差のある全受講者に満足感を与える授業が行えた。
①下のレベルの受講者に対しては、繰り返し声出しをさせることで、日本語の発音に慣れ、日本語を聞き取り、指示等も理解できるようになった。
②受講者同士が少しずつでも協力し合い、会話を作っていくような授業展開にした結果、クラスに活気が出た。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人アジアの風　岡山外語学院

住所：岡山県岡山市北区舟橋町２－１０

実証概要

コース名	就労コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１２回　計１，０８０分				

主な教材教具	務局提供教材を使用。 【受講者用】受講者事前学習用動画（英、中、越） 【教師用】　①教師用ガイドＡ・Ｂ　②授業用会話動画（日本語） ③授業パワーポイント（ＰＤＦ）④授業マニュアル　⑤各課スクリプト
受講者情報	受講者数合計４３人（【内訳】国内在籍留学生２人・国外留学希望（予定）者２８人・その他１３人） ・learningBOX上にある事前学習用動画（オンデマンド教材）の視聴を全受講者に対して課し、授業については全ての回を完全オンラインで実施した。 ・受講者は各自または学校（事務所）が持つデバイスで受講した。 ・受講者が使用するデバイスは日によって異なる場合があるものの、ＰＣスマートフォンのは割合はほぼ同程度だった。 ①ＰＣ：２１名（４９％） ②タブレット：０名 ③スマートフォン：２２名（５１％）
授業概要	・事務局提供のカリキュラム及び事前学習用動画を使用した。 ＜基本的な授業の構成＞ １.オープニング（挨拶・アイスブレイク）　２.登場人物紹介　３.場面提示 ４.会話動画視聴　５.スクリプト理解　６.言葉と表現　７.今日のポイント説明 ８.会話練習　９.確認クイズ　１０.まとめ

申請時点　【課題と目標】

・オンライン授業の需要が増える中で、経験ある教師数を増やし、スキルを向上させたい。未入国の受講者に対しては、フォローを十分に行う必要がある。
・教師の目標は、オンライン授業技術スキルの習得・向上、受講者の目標は、来日後、役立つ日本事情について知ってもらうことである。

実証終了時時点　【成果と反省】

【教師】対面授業と同様にオンライン授業を一人で何でもできるというほどの自信がついたとまでは言えないものの、担当教師全員がＩＣＴの知識を身に付け、オンライン授業を着実に実行できるスキルを習得・向上できた。また、オンラインの利点を生かした授業を提供できるようになった。
【受講者】出席率・動画視聴率等１００％は達成できなかったが、全員授業中は積極的に参加していた。日本文化への興味を引き立て、来日後に日本で働くモチベーションを高めることができた。

事業成果

オンライン × 話す（発表）

日本人の発音に近づけたり、スムーズな発話ができるようにしていくために、アクセントやイントネーション、プロミネンスなどの練習を継続して行った。ペアで会話作成のタスクを行い、その内容の発表を行った。教師は受講者同士が日本語で意見が伝えられるように協働学習の場を設け、日本語の使用を促した。
授業内で行った発表活動に対して、教師からは、１人ずつ良かった点と改善点のフィードバックを口頭により行った。
それらの活動により、就労場面においてほどほどの流暢さで、ある程度の長さの説明や報告ができるようになった受講者がいた。また、日常生活やビジネスシーンで役立つ文化や習慣についても習得でき、積極的に質問ができるようになった。

オンライン × 読む

授業内で、日本語で書かれたスクリプトをしっかり精読することで、日本語の会話文に慣れるとともに、使われている漢字等の確認をしたり、内容理解をさらに深めたりすることができた。
他に、受講者が日本語の会話文の読むスピードを上げるために、事前学習用動画を見る際には、一言一句確認しながら読むのではなく、流れに合わせること、日本語の会話文の内容を理解するために、事前学習用動画を見る際に一度は精読もすることを指導した。その結果、仕事上の身近な話題に関する出来事などを読んで、要点を理解できるようになった。また、必要な情報を会話文の中から探し出したりもできるようになった。

独自の取組

オンラインでの参加のため、コース開始時は受講者同士お互いに様子をうかがっている印象があったが、ブレイクアウトルームを使った活動を必ず取り入れることで、徐々に打ち解けていった。毎回新しいペアを組んでワークを行ったが、同国人同士でも日本語でのコミュニケーションが生まれるいい傾向が見られるようになった。このように受講者間のコミュニケーションが増えることにより、雰囲気もよくなり、クラスに一体感が生まれた。そして、学習に遅れが見られる受講者もクラス全体で支え合う環境が生まれ、コース終了まで受講を継続できた。

学習効果・成果（総括）

開始当初から継続して指導しているアクセントやイントネーションの練習の成果は出てきており、滑らかで自然な日本語が話せるようになってきた受講者も多くいた。個人によって差はあるものの、コミュニケーション力を向上させ、Ｂ１相当の日本語能力を身に付けるという当初の目標は概ね達成できたと言える。終盤の課は内容も語彙も難しくなり、受講者の口が慣れるまでに時間がかかるようになってきたなどの課題は残った。
就労場面で実際に使われている「生きた日本語」を学ぶことで、敬語の使い方が理解できたり、日本で仕事をしてみたいと感じた受講者が多くおり、目的を絞った教材を使用しての授業の大切さを実感した。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ＫＣＰ学園　ＫＣＰ地球市民日本語学校

住所：東京都新宿区新宿１－２９－１２

実証概要

学校法人 KCP学園
KCP地球市民日本語学校

コース名	フリーコース《間接法》				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×４３回　計３，８７０分				

主な教材教具

・本校作成のオンライン用テキストブック
・ learningBOX内の自宅学習用教材　すべて英語での指示あり
　＜予習＞文法：用法説明動画（英語版）、ドリル教材　単語：ビデオ（英語での意味説明、音読練習）、フラッシュカード　　聴解：練習用音声教材
　＜復習＞文法：復習問題　　聴解：復習問題　　会話：復習問題（並べ替え問題）

受講者情報

受講者数合計４人（【内訳】国外留学希望（予定）者１人・海外就労者２人・その他１人）

・学習環境：　オンライン４名
・利用デバイス：　ＰＣ（３名）、タブレットＰＣ（１名）
・環境における課題
（１）インターネットの不調でＺｏｏｍに接続できず、授業に参加できないことがある。
　→対応方法：普段から連絡手段としてメールを使用しているので、メールで欠席連絡を送ってもらうことにしていた。また、その日の授業内容に関してはこちらからメールで伝え、課題などの指示も併せて行った。
（２）learningBOXにあるオンラインテキストブックを開きながらＺｏｏｍで授業（教師の映像）が見られない。
　→Ｚｏｏｍの画面共有機能を使い、教師の映像と共に教師のＰＣで開いたオンラインテキストを見せた。

授業概要

・本校作成のオンライン用テキストブックを使用し、日本語教育の参照枠の「話すこと（やり取り）」を重視した会話中心型の授業。
・１週間に１回程度の頻度で「話すこと（発表）」も行う。
・文法項目は６７文型、１日に１～２項目を教える。
・１回の授業（９０分）の主な内容は以下のようになる。
　前日の文法項目の確認・復習・予習（単語、文法）の確認・単語の発音練習・文法の定着練習会話（「話すこと（やり取り）」）練習・活動（発表やスキット作成など）
※本コースは反転授業であるため、授業前に事前課題（予習）をした上で授業に参加することを必須とした。

申請時点　【課題と目標】

・オンライン授業用の教材、自学習用のオンデマンド教材を作成しているが、それを効果的に使用することができない。また、オンライン授業でプレゼンテーションのスピーチ力は身についても談話力が弱いという課題がある。
・オンライン授業用教材を用いて日本語を効果的に習得してもらえるようなカリキュラムを構築する。「やり取り」のモデルを示す聴解教材を作成し、談話力強化につなげる。

実証終了時時点　【成果と反省】

・自学習での予習を前提に授業を行ったが、受講者の間で課題達成率に大きく差が出た。自学習ができないために、授業についていけなくなり、脱落する受講者が出てしまった。受講者の学習ペースに合わせた教材がない。また、一度遅れてしまうと授業についていけなくなってしまう。　さらに、教師がその自学習用教材を授業内でうまく活用できなかった。
・動画やドリル教材を増やし、予習用また復習用の自学習教材を強化した。特に聴解教材を増やし、やりとりのモデルを聞かせたが、スクリプトがないために聞くだけに終わってしまった。この実証結果をもとに、さらに必要な教材を増やしていきたい。また、発話力中心のオンライン授業であっても、「書く」ことに対するニーズがあったため、初歩段階では基礎的な読み書き能力を養成する教材の作成に取り組む。

事業成果

オンライン ✖ 話す（発表）

日本語での発表ができるようになる準備として、発表の構成を教授した。あわせて、よく使う言い回しや語彙なども導入した。受講者には事前にスクリプトを提出させ、スクリプトや原稿、場合によっては資料を確認し、媒介語で訂正やコメントなどを入れてフィードバックを行った。フィードバックは媒介語で行ったので、良かった点や改善点を的確に伝えることができ、その後の発表で改善が見られた。また、受講者同士で評価したり感想を伝えたりすることができるので、動機付けにもつながり、お互いに協力しながら上達していこうとする一体感も生まれやすかった。

独自の取組

・来日したら遭遇するであろう場面を多く提示することで、日本へ行って実際に話したい、習ったことを使いたい、と思わせるような学習の動機づけを継続して行った。
　→実際に日本で勉強したい、旅行に行きたいと言った受講者がいた。また、１名は自国の大学で日本語の授業を履修すると決めたとのことだった。
・会話練習の中で、年中行事に何をするか、どこへ行くか、などの質問を通して、受講者の母国との違いや類似点を話すことで、日本文化への興味がもてるようにした。
　→受講者から日本文化や日本の食文化に関する質問が増えた。
・learningBOXに事前・事後学習用問題を作成し、文法項目の確認や、会話作成練習などができるようにした。
　→予習、及び復習に使用し、役に立ったとの意見があった。同時に、もっと実際に書く練習があったほうがいいとの要望もあった。

学習効果・成果（総括）

＜日本語能力＞
・受講者は実際の場面でどのような文型や表現を使うのかがわかり、話せるようになった。
・既習文法を組み合わせながら、やり取りや発表ができるようになった。
・オンラインでは教師の口元が見せられ、また受講者の発音もマイクを通してひとりずつ確認できるので、受講者の発音が上達した。
＜学習動機＞
・使用テキストに日本国内の旅行や年中行事、ポップカルチャーなどについて話す機会が多く、その都度インターネットの情報や写真などをＺｏｏｍの画面共有機能を利用し見せた。そうすることで、実際に留学したいという動機づけにつなげられた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ＫＣＰ学園　ＫＣＰ地球市民日本語学校

住所：東京都新宿区新宿１－２９－１２

実証概要

学校法人 KCP学園
KCP地球市民日本語学校

コース名	観光コース				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具

・事務局提供【観光コース】教材

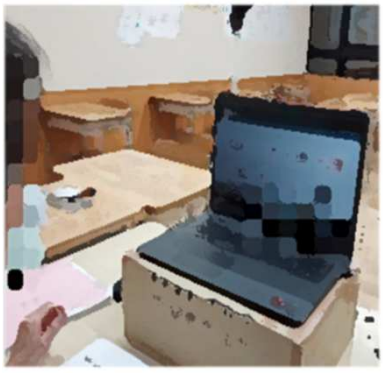
受講者情報

受講者数合計１５人（【内訳】国内在籍留学生３人・渡日前留学生１２人）

・受講者全員オンライン　ＰＣで受講
・受講者の自宅のネット環境が悪く、途中で回線が切れてしまうことがあった。その際は、スマートフォンで受講する場合もあった。

授業概要

観光コースとして用意されていた動画、授業の進め方に基づいて授業を実施した。
受講者のレベルが想定していたよりも高かったため、途中から設定されていたクイズのほかに担当教師が動画の内容や授業内容からオリジナルのクイズを作成し、授業内で実施した。
また、語彙もすでに知っているものが多かったので、関連語（類義語・対義語）などを導入・紹介するようにして、できるだけ新しい日本語を学べる機会を増やした。
会話練習では、Ｚｏｏｍのブレイクアウトルームを使って日本人役も含めて練習させた。



申請時点　【課題と目標】

・オンライン授業では受講者の集中力が続かず、授業についていけなくなるものがいる。授業へのエンゲージメントを高める工夫が必要である。
・提供教材のテーマの楽しさや豊富な動画等の視聴覚教材を活かし、受講者の集中を切らさず、発話力を伸ばすための方法論を確立したい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・オンライン上でも、教師と受講者とのコミュニケーションをとることが大変重要であるということがあらためてわかった。今後は、オンラインでもオフラインでも受講者の抱える悩みや、課題に対して一人一人向き合っていくような体制を構築していく必要がある。「オンラインだから」、と諦めてしまうことがないように教師の意識も変えていく必要がある。
・無料ということもあり、受講者のモチベーションを続けることが課題であったが、１名を除きほぼ全員が毎回欠かさず出席していた。授業時間外でもメールで声掛けをする、授業中のブレイクアウトルームでの会話練習で教師と受講者が交流するといった工夫でオンライン授業でも集中して授業ができるようになった。

事業成果

オンライン × 話す（やりとり）

最初に会話を聞き、それをリピートさせた。リピートさせるときには、イントネーションやアクセントなど細かいところにまで意識させた。とにかく、毎回繰り返して行い、その都度注意して訂正させ習慣づけさせていった。毎回繰り返して行うことで、受講者に正しい発音・アクセント・イントネーションに意識を強く向けさせることができた。
さらに発展して実際にお店で話されている会話例を聞かせるなどして、実践練習を行うことも今後考えられる。

オンライン × 日本事情

授業で取り扱っている地域について、知っていること、行ったことがある人がそれぞれの観光地でさらに詳しい情報を調べて、発表を行った。（観光地の場所や料金などをネットを使って調べる等）授業の中で各地域や方言についてなど質問が増えてきて、関心が深まっていることが感じられた。

独自の取組

・受講者同士、教師と受講者の関係性をつくるのに、時間がかかり、工夫が必要であった。授業内の活動では、ブレイクアウトルームで個別に話すなどして関係を築くようにしたところ、同じ国籍同士の受講者がすぐにいい関係が築けていたようだった。

・発話力の強化を目標に、自然なイントネーションやアクセントを意識させた結果、最後は自分たちが言い直しをするようになった。繰り返し指導していくことで得られた効果である。

学習効果・成果（総括）

・日本語学校では「文法」「漢字」など新しい知識を覚えることに偏りがちだが、場面にあった表現や必要な語彙を覚えていくと、より自然な日本語を学ぶことができ、受講者も楽しめることがわかった。
・オンデマンドの教材を使って、事前視聴することが前提となっていたため、授業内で扱われる語彙や会話表現の意味を理解した上で授業に参加していた。そのため、受講者のレベル差があっても、授業を進めるにあたっては、大きなレベル差なく進めることができた。また、基本的な意味を理解しているので、その確認後、さらに周辺の語彙や発展させた会話練習を行うことができた。授業内で初めて触れる語彙や表現が多ければ、基本的な会話の練習にとどまっていただろう。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

埼玉日本語学校

住所：埼玉県さいたま市大宮区土手町１－５８－１

実証概要

SAITAMA JAPANESE LANGUAGE SCHOOL

コース名	スタンダードコース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×４７回　計4，２３０分				

主な教材教具	『みんなの日本語　初級I　第２版　本冊』電子版　株式会社スリーエーネットワーク、ひらがな・ カタカナパワーポイント、みんなの日本語パワーポイント、学校独自パワーポイント
受講者情報	受講者数合計２１人 （【内訳】渡日前留学生３人・国外留学希望（予定）者１６人・ウクライナ避難民２人） 受講者の使用デバイス：スマートフォン 受講者のネット環境：公衆Wi-Fiを使用している受講者が多かった 受講者の環境における課題：日によってかなりつながりにくいことがあった 上記課題に対する対応：ネット回線の良し悪しに関しこちらで出来ることはないので、受講者にはできる範囲で参加してもらい、次の授業の時に復習の時間を設けていた
授業概要	ひらがな・カタカナの読み書き みんなの日本語１～２０課 ・語彙→文法→会話の流れでボトムアップ方式による積み上げ指導を行った。 ・　『みんなの日本語』の会話音声を聞かせ内容質問、『みんなの日本語』の問題ページにある聴解問題 ・語彙リストの読み合わせ、教科書の例文や会話の音読

申請時点　【課題と目標】

・多様化する受講者のニーズに合わせオンライン授業の実施を検討しているが、オンライン授業の円滑な実施に向け、教師のスキルアップを図りたい。
・効果的なオンライン授業の実施方法を検証する。

実証終了時時点　【成果と反省】

・授業を担当した教師は、パワーポイントやGoogleスライドで教材を作成したり、Ｚｏｏｍの様々な機能を使いこなせるようになるなどオンライン授業のためのスキルがかなり向上した。
・オンラインならではの教材の見せ方や授業の進め方を習得することができた。
・今まで行っていたオンライン授業は一方通行で発信することが多かったが、Ｚｏｏｍを用いて双方向の授業ができるようになった。受講者の身近な事柄を題材に授業を展開することで、受講者たちも最後まで飽きることなく意欲的に学習できた。

事業成果

オンライン × 聞く

聴解をするにあたり、初めに質問を提示しておき、何に注意して聞かなければならないかを確認してから音声を聞かせた。授業開始当初は非常にゆっくりと発話していたが、回数が進むにつれナチュラルスピードとはいかないまでもある程度の速さで話してもしっかりと内容を理解し受け答えができるようになった。

オンライン × 書く

『みんなの日本語』で学んだ文型を用いて短作文を実施した。
まずは穴埋め形式で短作文をさせていき、注意しなければならない点など慣れてきたら全文を受講者に考えてもらった。ノートでチェックができないというオンラインの弱みを解決するため、学習項目を用いて短文を作り口頭で発表してもらい、教師はそれをＺｏｏｍのホワイトボードやGoogleスライドに書き込みチェックする方法で「書く」能力の確認を行った。

独自の取組

授業の開始時間前にＺｏｏｍに参加してくれる受講者がいたため、その時間をコミュニケーションの時間とし、既習文型を用いて簡単なやり取りを行った。初めは話せることが少なかったが学習が進むにつれ話せることも次第に増え受講者もその時間を楽しみにしてくれていた。
テキストの練習問題だけではただの代入練習で終わってしまい、あまり効果的ではないと考え、受講者自身の生活や身近な話題についてQAしていくことを心がけた。ただテキストの問題をやるだけよりも意欲的、積極的に答えてくれ、自分の話したい内容について自ら語彙を調べて発表してくれるなど非常に効果的であった。受講者との関係構築にも役立った。

学習効果・成果（総括）

オンライン教育は、通信状況にかなり左右されることが最大の課題である。会話練習で声が途切れてしまったり、電子教材のページがうまく送れなかったりと通信上の様々な問題が生じた。
ひらがな・カタカナの授業では実際にノートに書いてもらったが画面越しでは受講者の書いた文字をチェックできず限界を感じた。受講者が書いたものをlearningBOX上にアップロードできる機能があればよかった。その日の学習内容に入る前に必ず前日の復習を入れたり、覚えにくい項目については何日も継続して復習をしていった。その結果覚えるのに時間のかかるものも正しく言えるようになり、改めて日々の繰り返し練習の大切さを実感した。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

埼玉日本語学校

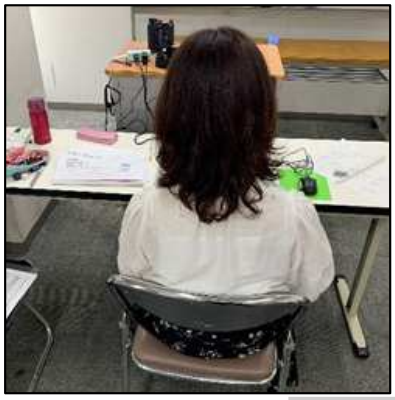
住所：埼玉県さいたま市大宮区土手町１－５８－１

実証概要

SAITAMA JAPANESE LANGUAGE SCHOOL

コース名	就労コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１２回　計1，０８０分				

主な教材教具	事務局作成オリジナル教材（就労コース）、学校独自パワーポイント
受講者情報	受講者数合計４２人（【内訳】渡日前留学生１０人・国外留学希望（予定）者３２人） 受講者の使用デバイス：スマートフォン 受講者のネット環境：日によってかなりつながりにくいこともある 受講者の環境における課題：ネット回線の問題 上記課題に対する対応：ネット回線の接続に関し出来ることはないので受講者にはできる範囲で参加してもらい、次の授業の時に復習の時間を設けた
授業概要	日本での就業を希望・検討している未入国の方を対象とし、「コンビニ」での就労場面を想定した日本語を学習。日本で働くときに役立つ日本事情の理解を促すとともに、日本語の語彙や表現を学習。 ・「今日の会話」で内容質問、「語彙と表現」で意味の確認 ・「今日の会話」動画を見た後で内容質問。あるいは先に質問を提示しておき、その後で動画を見て確認 ・「今日の会話」動画のスクリプトを音読。その後内容について質問を行う。



申請時点　【課題と目標】

・多様化する受講者のニーズに合わせオンライン授業の実施を検討しているが、オンライン授業の円滑な実施に向け、教師のスキルアップを図りたい。
・受講者にとって満足度の高いオンライン授業の方法、技術を習得したい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・用意されている教材をただ使うのではなく受講者のニーズを確認し授業を行った。会話に加え、聴解、読解、漢字も学習したいとのことであったので、ビデオ教材を用いて聴解活動を行い、ビデオのスクリプトを用いて読解活動を行った。漢字についてはスクリプト内に出てきたものを使って読みと筆順の確認をしていった。また会話練習では用意されているものの他にコンビニ以外でもいろいろな業種で幅広く使える会話表現を学ぶためにスライドを自作し練習を行った。受講者はノートやメモを取ったり、会話を暗記して発表するなどいずれの活動にも意欲的、積極的に取り組んでくれ、ニーズを満たせたと感じている。

事業成果

オンライン オンデマンド ✖ 話す（発表）

オリジナル教材（就労コース）にある「今日の会話」、「今日のポイント」を用いて会話練習を行った。反転授業のため、受講者は事前に授業動画の予習を行っている。会話の発表ではＺｏｏｍのブレイクアウトルーム機能を利用しペアで練習してもらった後に発表してもらったが教材で用意されているモデル会話はもちろんオリジナルの会話文も流暢に話すことができていた。

オンライン ✖ 日本事情

日本事情・日本文化に関するテーマを課し、それについて調べてもらい自国との比較を交えながら発表してもらった。
実際にコンビニで買い物する様子や街並みを撮影して見せ、意見や感想、質問を発表してもらった。自国の事情・文化と比較しながら日本事情・日本文化について各自よく調べ分かりやすく発表してくれたり、買い物する様子や街並みなど教師が撮影してきたものを大変興味深く見てくれ、こちらの説明にもしっかりと耳を傾けながら様々な観点から質問を投げかけてくれるなど関心を持って意欲的に臨んでくれた。

独自の取組

提供されている教材に加え、日本の文化や習慣等を紹介すべく様々な活動を行った。具体的には各回の終わりに宿題として「訪れてみたい日本の地」や「食べてみたい日本食」など様々なテーマを決め、各自調べてもらい次の授業の冒頭で発表してもらったり日本文化の紹介だけでなく自国の文化や習慣についても発表してもらう時間を設けるなどし文化や習慣の比較学習を進めていった。
その他コンビニやカフェで実際に買い物する様子を撮影して見せたり、近くにある神社や街並みを撮影して紹介するといった活動も行い、受講者は大変興味を持って撮影したものを見てくれた。
授業後の感想では「コンビニで使う日本語だけでなく、日本の文化も学習できて非常に楽しかった。ぜひ日本へ行ってみたい」という声が多数上がり、日本留学・日本語学習のよい動機づけになったと考えている。

学習効果・成果（総括）

就労コースのレベルに達していない受講者には無理なく学習が進められるよう、受講者のレベルに合わせて授業の内容を工夫して進めていった。具体的には就労コースの教材をベースとしつつ、会話文の中にある易しめの文法をピックアップして練習できるようにスライドを自作して導入・練習をしていった。このようにダブルスタンダードの授業を展開することで受講者間にレベル差はあるものの取りこぼしなく授業が展開できた。第２１回、２２回については急激に難易度が上がり、レベルの高い受講者にとってもあまりにも難しいとのことだったので、受講者用の翻訳付き教材も活用しながら授業を進めていった。その結果、受講者に内容をしっかり理解してもらうことができ、無事就労コースの授業を終えることができた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人吉岡教育学園　千駄ヶ谷外語学院

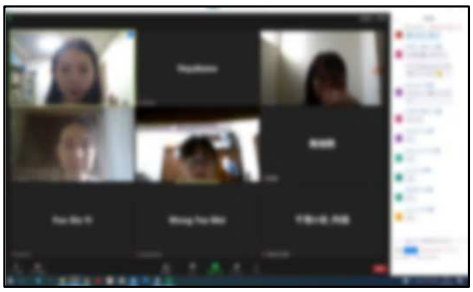
住所：東京都豊島区駒込１－１３－１１

実証概要

学校法人吉岡教育学園
千駄ヶ谷外語学院

コース名	フリーコース《就職活動のための日本語》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回６０分×５回　計３００分				

主な教材教具	・本事業にて開発した教材を使用（カリキュラム、授業投影資料） （１）就職に必要な情報を得る～日本での就職・就職活動に必要なこととは何か～ （２）異文化理解を深める～日本の企業文化～ （３）日本語力を伸ばす～敬語、自己ＰＲ～
受講者情報	受講者数合計４０人 （【内訳】国内在籍留学生４人・国外留学希望（予定）者２３人・海外就労者１３人） ・全員オンラインで参加。 ・ほとんどの受講者はＰＣで参加。１～２名スマートフォンで参加する受講者がいた。 ・基本的にカメラオンを求めた。多くの受講者はカメラオンで参加。 ・練習等の時間にマイクオンを求めた。しかし、受講者によってはオンにできない受講者もおり、その場合はＺｏｏｍ内のチャットでテキストのやり取りをした。
授業概要	・日本での就職を目指している方、日本で就職することに興味を持っている方を対象に、日本で就職する際に必要な知識を提示し、必要な言語活動について練習を行った。 日本での就職・就業についての知識・マナー 自己分析等の自己表現 履歴書作成等書くこと 面接等口頭での表現 敬語に関する練習 ・１コマ６０分×５回のコースを実証時期①②それぞれ３クラスずつ、計６クラス実施した。



申請時点　【課題と目標】

・オンライン教育の効果が把握できていない。
・受講者に日本語を効果的に習得してもらえるオンライン教育スキルを身につけたい。
・対面授業と同等に成果が見込めるオンライン授業を行えるようにするとともに、実証事業後は、海外に限らず、オンライン授業を希望する受講者に展開していきたい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者へのアンケートや授業担当教師の所感から、オンライン教育で実施した場合も、取り上げた言語活動に関して教育効果を上げられることがわかった。
・受講者が理解しやすい視覚情報の提示のしかたや、授業の進行のしかたを身につけることができた。また、職員についても、オンラインコースでの募集や受講者管理を経験し、その方法を身につけることができた。対面授業とオンライン授業の成果は全く同じものではないが、それぞれの長所を生かして授業を行うことで、成果が上がることを再認識した。オンライン授業の長所としては、例えば、受講者からの提出物に関するやり取りがしやすいこと、受講者との一対一の雰囲気を作りやすいこと、実際の活動で使う「打つ」ことを書く活動で取り入れやすいこと等が挙げられる。また、地理的な制限がないことは最も大きい長所であり、日本での就職に関する日本語学習へのニーズについて、広く、可能性があることがわかった。事業終了後のコース展開に向けて活かしたい。

事業成果

オンライン ✖ 書く

自身の経験を振り返り、企業が求める人材とすり合わせ、自己ＰＲ文を書く、ボトムアップの手法で授業を行った。具体的には、「就職活動で自己ＰＲをする目的を確認する（受講者に意見を求めながら、教師がポイントを整理）」「敬語表現、です・ます体、友達言葉を整理する～会話例を段階的に直していく」「面接形式で、ペアまたはクラスで発表」等の形式で授業を進めた。就職活動をしたことがない受講者の中には、コース開始時には、十分な根拠を示すことができない受講者もいたが、終了時にはポイントを押さえた文章が書けるようになり、目標に到達することができた。今後も受講の機会があれば、さらなる伸びが期待できる。

独自の取組

教師が提示したケースについて「登場人物（日本人）が何を感じるのか」「受講者の母国ではどうか」等について受講者に発表してもらい、教師が理解度を確認。
ケース例：「遅刻の原因を説明したにも関わらず怒られた」というケースにおいて、「なぜ相手（日本人）が怒ったのか」「日本人の考えの背景にどんな考えがあるのか」「母国ではどうか」について受講者全員に意見を求め、その理解を確認した。日本理解という項目においては、必ずしも正解が一つではないため、全員が同じ捉え方をしているとは限らない。ただ、「こういった考えがある」「こういった振る舞いが好まれる傾向がある」という意味での理解をすることができた。

学習効果・成果（総括）

・受講者によって「使用する端末」「受講環境（どこで受講しているか）」が異なることが、授業への参加度・理解度に影響する。
例）ＰＣで参加するか、スマートフォンで参加するかによって文字情報の見やすさが変わる
　　通信状況、周囲に人がいるかによって、集中できるかどうかが異なる。その結果、受講者の日本語能力とは別のところで、参加度・理解度に影響を与えることがある。
・授業回数が２回、３回と限られていたため、日本語能力については大きく伸びたとは言えない部分がある。しかしながら、「日本で就職できればいいな」という漠然としたイメージ（夢）を持っていた受講者が、道筋を具体的に考えたり自分がすべきことを認識したりする機会となり、学習動機を高めることができたと感じる。
・また、海外にいる多くの受講者が「日本語を使う機会がない」と話していた。そういった受講者が「実際に日本人とつながる／日本語で他国の受講者とつながる」「日本語でアウトプットする」ことができたのは学習動機の向上・自律学習への動機付けに好影響を与えたと考える。

学校法人吉岡教育学園　千駄ヶ谷日本語学校

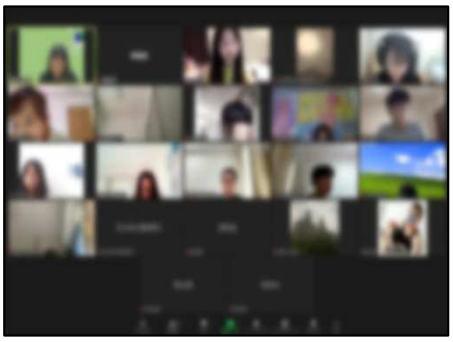
住所：東京都新宿区下落合１－１－６

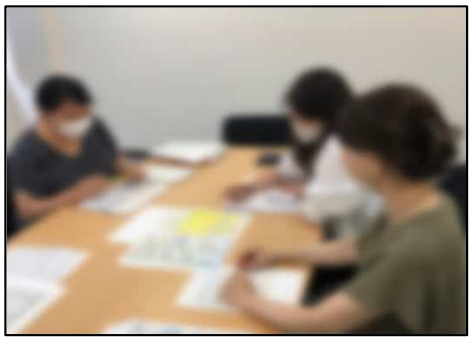
実証概要

学校法人吉岡教育学園
千駄ヶ谷日本語学校

コース名	フリーコース《日本語能力試験対策》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×２０回　計1，８００分				

主な教材教具	・本事業にて開発した授業カリキュラム（各科目大問を組み合わせた）、各科目各大問のポイントの説明教材、市販教材を使用した。 ・オンライン会議ツールはＺｏｏｍを使用した。
受講者情報	受講者数合計３４人 （【内訳】国内在籍留学生３２人・渡日前留学生１人・国外留学希望（予定）者１人） ・受講者は、全員オンラインで参加した。 ・受講者はＰＣで参加した。 ・常時カメラオン、指名時にはマイクオンで授業を実施した。スムーズに実施することができた。 ・初回の模擬テストでクラス分けを行ったため、初回と２回目以降は、ＺｏｏｍＵＲＬが異なるものになった。learningBOXでのお知らせを確認していない受講者が多かったため、メールで知らせた。 ・オンライン会議ツールはＺｏｏｍを使用した。 ・受講者は手元に教材を準備して授業に参加した。
授業概要	日本語能力試験Ｎ１合格対策コース。日本語能力試験の各科目「言語知識(文字・語彙・文法)」「読解」「聴解」について、試験問題を解くポイントを学んだ。 初日と最終日に模擬テストを実施し、自身の力を確認した。





申請時点　【課題と目標】

・オンライン教育の効果が把握できていない。
・受講者に日本語を効果的に習得してもらえるオンライン教育スキルを身につけたい。
・対面授業と同等に成果が見込めるオンライン授業を行えるようにするとともに、実証事業後は、海外に限らず、オンライン授業を希望する受講者に展開していきたい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者へのアンケートや授業担当教師の所感から、オンライン教育で実施した場合も、取り上げた言語活動に関して教育効果を上げられることがわかった。
・これまで身につけたオンライン授業での受講者とのやり取りのスキルに加えて、受講者が理解しやすい視覚情報の提示のしかたや、授業の進行のしかたを多くの教師が身に付けることができた。また、オンラインでの模擬テスト実施の方法を検討し、必要な資料を揃えることができた。
・受講者へのアンケート結果で、「集中できる」「学習の雰囲気がある」から、という理由で、「オンライン授業のほうがいい」と答える受講者も、「対面授業のほうがいい」と答える受講者も、両方同じぐらいいたことから、どちらがよいかは、人によって異なると考えられる。

事業成果

オンライン ✖ その他

問題を指定し解説を行うスタイルはトップダウン、受講者が発言して教師とやりとりしながら解説を聞くスタイルはボトムアップで行った。また、例えば、以下の部分を意識しながら解説を行った。
【文字】正解以外の選択肢についても漢字の書き方・読み方・意味を問い、理解を確認する。
【語彙】コロケーションや前後の内容の理解を確認する。
【文法】文型の接続や決まった接続語彙に注目するよう提示する。
コース終了時の模擬テストの得点率は６５．８%で、初回時より９．０%上昇した。問題として提示された文や文章に触れて、語彙や表現、文章の構成等を確実に把握し、内容を理解することができた。

独自の取組

１日目と１０日目に模擬テストを実施し、定量的に力の伸びが測れるようにした。受講者自身も力の伸びを客観的に把握することができ、自信につながったという感想があった。

学習効果・成果（総括）

・模擬テストの平均点をコース開始時と終了時で比較したところ、８．３７点の上昇だった。上昇幅は大きくはないが、開始時に約７０%の得点を取っていた受講者もいたことから、目標はほぼ達成できたと考えている。オンラインで試験対策を行うことについて、成果が得られることを確認した。
・受講者は様々な場所から参加できたので、ニーズに応えることができた。周囲にクラスメートがいないことで「集中できた」と感じた受講者もいたようだ。また、資料を見やすく提示することができた。
・下記の「得点アップのために気を付けること」に留意してオンライン授業を展開することができ、個々の教師の授業実施力の向上があった。
　「正解の導き方、文章の読み方、選択肢の選び方、聴解のメモの取り方、そのメモの利用のし方、質問の形式のパターンの整理」等
・画面共有をした際、受講者の反応が確認しにくく、教師が一人で講義をしてしまうことがある。非同期型のオンデマンド試験対策コースとは異なり、同期型のオンライン試験対策授業については、いかにインタラクティブに行うかが課題だと考えている。他の受講者から学びが得られる点を活かして改善していきたい。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人吉岡教育学園　千駄ヶ谷日本語学校

住所：東京都新宿区下落合１－１－６

実証概要

学校法人吉岡教育学園
千駄ヶ谷日本語学校

コース名	フリーコース《総合日本語》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	（１）１回４５分×１１回　計４９５分 （２）１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具

・本事業にて開発したオンデマンド教材を使用
［内容］
Ａ１レベル　日常生活で使用する会話表現
Ａ２～Ｂ１レベル　日常生活で使用する会話表現、聞く

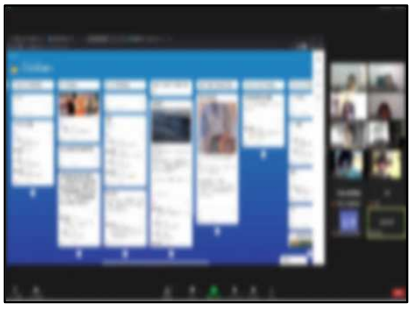
受講者情報

受講者数合計７５人（【内訳】国外留学希望（予定）者７５人）

・受講者は全員オンラインで参加した。
・受講者は、そのときどきによって、ＰＣ、またはスマートフォンにてオンデマンド教材を受講した。
・オンライン授業については、ＰＣ参加７割・スマートフォン参加３割。

授業概要

・反転学習としてオンデマンド授業を設定した。９０分×９回(Ａ２～Ｂ１対象)、あるいは４５分×９回(Ａ１対象)のオンデマンド授業を設定した。その後、あるいは、その途中に、１回オンライン授業を実施した。受講者は、都合の良い時間にオンデマンド授業を視聴した。必要な場合、動画視聴だけではなく、課題も設定して提出させた。
・オンデマンド授業は、基本的に１週間に１回分の動画を公開し、学習のペースを示した。



申請時点　【課題と目標】

・オンライン教育の効果が把握できていない。
・受講者に日本語を効果的に習得してもらえるオンライン教育スキルを身につけたい。
・対面授業と同等に成果が見込めるオンライン授業を行えるようにするとともに、実証事業後は、海外に限らず、オンライン授業を希望する受講者に展開していきたい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者へのアンケートや授業担当教師の所感から、オンライン教育で実施した場合も、取り上げた言語活動に関して教育効果を上げられることがわかった。
・オンデマンドコース実施のために、動画作成を行った。これまでは動画作成の経験があるのは一部の教師のみだったが、多くの教師が経験を積むことができ、スキルを身につけることができた。また、オンデマンドコースの設定のためにＬＭＳ（learningBOX）に関する知識を得ることができた。
・産出の言語活動において、対面授業と同等に成果が上げられるかどうかは検証がより必要であるが、少なくともオンデマンド授業でも受講者の総合的な日本語力は上がるということはわかった。本事業で実施したような非同期型授業と同期型授業の組み合わせでよりよい成果が上がる形を今後も模索していきたい。また、本事業での募集活動で、やはり時間的な制約からオンデマンド授業に対するニーズがあることがわかったので、今後のコース展開に活かしていきたい。

事業成果

オンデマンド ✕ 話す（やりとり）聞く

※聞くことができる→それを発話できる、というのが基本の流れのため、　聞くこととやりとりは連続した学習の中にある。

オンデマンドでは、以下の目標を立て、動画の配信、受講案内を行った。
【Ａ１】
①目標場面のスキットの動画を見て今日習得すべきゴールのイメージを持つ。
②場面を細分化し、定型表現が聞き取れるようになる。
③定型表現の使い方や当てはめ方を知り、発話できるようになる。
【Ａ２、Ｂ１】
・その日のゴールとなるスキットの聞き取り
・使われている表現の学習、応用の練習
・自分のことを自由に発話したり、書いたりする練習
トピックの中で、日本の文化を紹介して、受講者にも自国の文化習慣を紹介する、というものを多く扱い、反転授業と個々の課題へのフィードバックを必ず行うことで、受講者が自分のペースで学習でき、また事前に「わからないこと、知りたいこと」を明確にして授業に臨んでもらうことができた。

独自の取組

・オンデマンド授業(動画)の流れを一通り考えた後、受講者がどこで疑問に思うかということを予測し、動画を視聴後に「わからなかった」ところがないようにするために、語彙について英語や日本語で説明を入れたり、指示詞・言い換えの語について説明したり、確認の問題を作成した。
・その言葉を使う場面がわかるイラストを使用して、視覚的にも理解できるように工夫した。また、オンデマンド授業は受講者の反応を見ることができないため、取り上げた内容についてどのようなときに使う言葉なのか等を省略せずに一つ一つ細かく解説した。
・「読み物」系の教材は、受講者が音読練習ができるように、一文ずつ区切りの印を入れ、リピート練習ができるようにした。受講者の反応を見ることができないため、文を読み上げるときはゆっくり、はっきりと発音することを心がけた。

学習効果・成果（総括）

・受講者同士が休み時間におしゃべりする、というような交流ができないため、受講者同士のつながりができるような工夫を今後考えていきたい。
・著作権上、使用できる素材が限られてくるため、教材動画を教師自ら作成することは必要である。作成する動画の映像や音声の質は、学習のモチベーションに影響を与えると考えられるため、さらに改善を図っていきたい。
・予習課題の提出率は動画の視聴率よりよかったため、予習課題をした結果、これ以上の学習は不要と受講者自身が判断できたものもあったようだ。その点で自律的な学習ができたと考えられる。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

千駄ヶ谷日本語教育研究所付属日本語学校

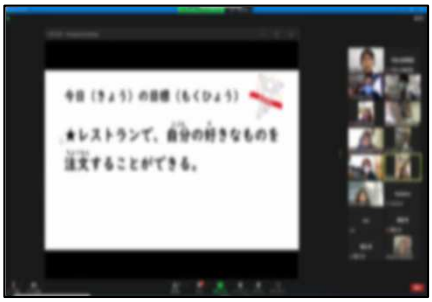
住所：東京都新宿区中落合１－１－２９

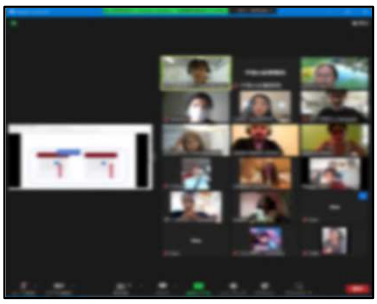
実証概要

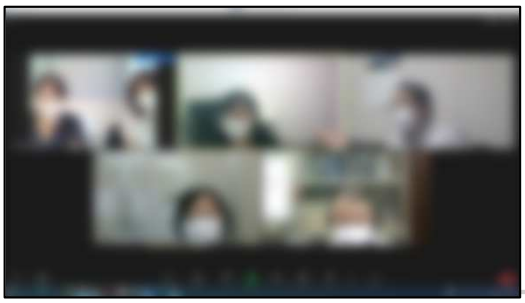
千駄ヶ谷日本語教育研究所
付属日本語学校

コース名	フリーコース《総合日本語》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・本事業にて開発した教材を使用した（カリキュラム、授業投影動画、授業投影資料）。 当校で使用している、当校のオリジナル初級教科書『コミュニケーション日本語』に準拠した会話場面等の動画教材を作成し、それを用いて授業を行った。 ・オンライン会議ツールはＺｏｏｍを使用するコースと、VooV Meetingを使用するコースと、２コース設定した。
受講者情報	受講者数合計３６人 （【内訳】渡日前留学生１９人・国外留学希望（予定）者１６人・海外就労者１人） ・全員オンラインで参加した。 ・ほぼ全員がＰＣで参加した。１～２名スマートフォンで参加した受講者もいた(移動中に参加していた様子)。 ・カメラオンは、平均すると半数ほどだった。 ・教師からの指示時には、全員マイクオンにできた。
授業概要	「話す、聞く」を学ぶ、初級の総合日本語コース ・当校のオリジナル初級教科書で取り上げている場面をもとに、日常生活でよく使う表現を学ぶ ・初級の日本語の基礎となる項目を広く取り上げ、受講者が日本語に対する興味を持ち、来日後の学習の基礎となるようにする ＜授業の流れ＞ ①Can-do確認→②使用語彙の確認→③会話の場面の提示 →④会話の導入→⑤リピート練習→⑥板書にて視覚的に確認 →⑦Q&A練習等→⑧会話練習（場面を利用、自分自身について） １コマ９０分×１０回のコースを実証時期①②それぞれ２クラスずつ、計４クラス実施した。 実証時期①では、Level１コース、実証時期②では、その続きのLevel２コースを実施した。







申請時点　【課題と目標】

・オンライン教育の効果が把握できていない。
・受講者に日本語を効果的に習得してもらえるオンライン教育スキルを身につけさせたい。
・対面授業と同等に成果が見込めるオンライン授業を行えるようにするとともに、実証事業後は、海外に限らず、オンライン授業を希望する受講者に展開していきたい。

実証終了時時点　【成果と反省】

・受講者へのアンケートや授業担当教師の所感から、オンライン教育で実施した場合も、取り上げた言語活動に関して教育効果を上げられることがわかった。
・オンライン授業の進行のやり方、オンライン授業で受講者に積極的に参加してもらう授業のやり方等を身につけることができた。
・オンライン授業でも、様々な留意点に気を配って実施すれば、成果が上がることを再認識した。また、受講者、教師ともに、オンラインツールの取り扱いについては、最初にしっかり準備をしておくことで問題なく実施できることも再認識できた。海外における日本語学習のニーズを感じたため、本事業終了後も、実証事業で得た成果をもとにコースを展開していきたい。

事業成果

オンライン ✖ 聞く

「教師の指示や説明を聞いて、会話練習や発言をする」「モデル会話（動画の字幕なし）で場面や内容を聞き取り、動画（字幕つき）で詳細を確認、発音練習を行う」「フリートーク等で受講者の聞き取りにくい発話があっても、教師の助けを借りて（確認や繰り返し）、聞き取る」方法で授業を進めた。授業内でのパフォーマンスから、「聞いてください」「見てください」「言ってください」「先生に質問してください」などの指示を聞いてその通りに行動ができるか、教師の発話に続いてリピートができるかといった観点で評価を行った。授業内での教師の指示が聞き取れるようになった。モデル会話は動画をヒントにし理解できるようになった。

独自の取組

教師と受講者の小グループで、フリートークを行った。具体的には、その日の話題についてQAでのやりとりからその授業の目標のCan-Doに合ったロールプレイ等を授業中に行い、身近なもの・ことの紹介や説明につなげていくという手法をとった。自己紹介など限定された内容で短い説明に関して達成した。身近な話題であれば一人で話すことができ、概ね達成した。
例）Can-Do：自分の家族や相手の家族について話したり聞いたりすることができる
●フリートーク例：自分の家族が好きなことについて話そう
自己紹介（名前、国、好きなこと、あいさつ「よろしくお願いします」）
家族の紹介（母（父）は〇〇に住んでいます。
【職業など】〇〇です。/　〇〇をしています。）
家族が好きなこと（母はケーキを作るのが好きです。父はサッカーを見るのが好きです。/　サッカーをするのが好きです。　）等

学習効果・成果（総括）

・会話場面を動画で示すことによって、場面の様子や会話の背景が伝わり、受講者がスムーズに理解し練習に進むことができた。受講者からは「場面が理解しやすい」「セリフが推測しやすい」「会話の構成がより理解できる」等の反応が見られた。オンライン授業では、視覚的な提示を工夫することが重要だとあらためて認識した。
・教師のちょっとした工夫でクラスの雰囲気ができあがっていくことも認識した。
・初級レベルであっても、クラスメートや教師と日本語でコミュニケーションできたことで、受講者が大いに自信をつけ、学習動機が向上し、日本への興味が高まったと考えられる。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ＩＳＩ学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ

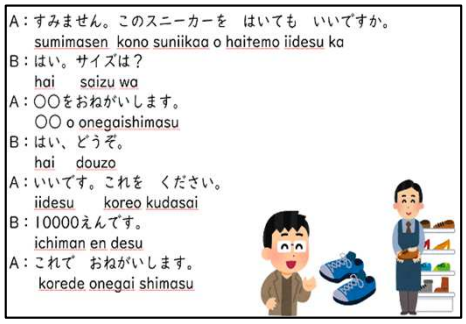
住所：長野県上田市中央３－５－１８

実証概要

学校法人 ISI 学園 専門学校 長野ビジネス外語カレッジ

コース名	観光コース				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	【受講者用】事前学習用翻訳付き動画（英語・中国語・ベトナム語）（※learningBOXに格納されている）にアクセスし、インターネット上で閲覧。 【教師用】・授業用日本語版動画　・教師用マニュアル　・ナレーション日本語スクリプト ・授業用日本語版パワーポイント（ＰＤＦ） ・シラバス・表現・語彙一覧表　・受講者のレベルに合わせて作成したパワーポイント教材
受講者情報	受講者数合計１８人 （【内訳】渡日前留学生１人・国外留学希望（予定）者１人・海外就労者７人・その他９人） ・基本的には海外の自宅、あるいは職場からＰＣで参加。 　自宅、職場からはＰＣ使用が１００％で、受講者自身が翻訳機能を適宜使って、話したいことを話すことができたり、事前学習用の教材を同時に開いて意味を確認することができた。 ・時には移動中のバス（電車）の中からタブレットやスマートフォンで参加していた受講者がいた。外から繋ぐことはごく稀なことであったが、それでも声を出してリピートしてくれる受講者がいた。
授業概要	外国人留学生の関心が高い日本観光を授業のテーマとし、１０地方の観光情報（観光スポット、食べ物、名物、方言等）を紹介し、日本事情を学ぶための授業である。タスクシラバスにより観光シーンでの会話を各４編取り上げた。授業前に事前学習用オンデマンドビデオを視聴する反転授業となっており、意味や音声は事前に見ている前提で授業を進めた。受講者のレベルはＡ１～Ｂ１まで様々であるため、使用する教材にはローマ字・ひらがなの表記を使用した。レベル別に以下の到達目標を設定して授業に取り組んだ。 Ａ１レベル到達目標：観光シーンでの簡単な表現を覚えて使用できるようにする。 Ａ２レベル到達目標：観光シーンでの簡単な表現を使って、自分の目的が達成できるようにする。 Ｂ１レベル到達目標：観光シーンでの表現を使って、応用会話ができるようにする。



申請時点　【課題と目標】

・日本留学を考えていても入国できなければ取りやめたり、現状のオンライン教育に満足せず継続しない受講者が多い。オンライン授業での相手の反応を見つつ双方向性の授業が難しい、という課題がある。
・日本留学を迷う受講者に対してオンライン教育をきっかけに日本語学習への意欲を起こさせ、入国可能になった際は日本全国（特に地方でも）充実した留学ができることを伝えていく。

実証終了時時点　【成果と反省】

・今回は少人数のクラス編成にしたため、一人一人の反応を確かめながら授業を進めることができた。少人数制は経営的に難しい場合が多く、経営、授業運営の両面から考えて適切なクラス人数を検討すべきだろう。
・受講者にとっては教材のテーマ、内容が実際の日本での生活に関連しており、興味を持ちやすかったと考える。授業に参加してくれた受講者の感想を聞くと、確実に日本への興味が増し、また、日本語でのコミュニケーションに自信をつけることができた点で、留学への不安を解消し、ハードルを下げたと考える。

事業成果

オンライン × 話す（やりとり）

・教師と受講者で役を割り振り、会話例を練習したあと、受講者それぞれに役を割り振り、会話例を練習した。また、受講者に対し、受講者自身について聞くような会話を心掛けた。会話例を繰り返し練習し、また副教材（※）を使用して表現の練習をすることで、簡単な事柄であれば自身のことや自国について話すことができた。
（※）…ビデオ教材に出てくる「表現」をより多く練習ができるような副教材

オンライン × 話す（発表）

・ミニ会話で自身の経験を発表させた。
　Q：ラーメン/すし/すきやきを食べたことがありますか。
　A：はい、あります。/いいえ、ありません。
・Ａ２，Ｂ１レベルの受講者には自身の国の文化について聞き、話してもらった。（例、会話例”まつりについて質問する”より、「ロシアに夏のお祭りがありますか。」など）そうすることで、観光シーンで使用する表現を覚えて、自らの文脈に即して言えるようになった。

独自の取組

受講者の学習環境によっては、インターネットの接続が断続的になり、集中力が切れてしまうことがあったが、インターネット環境が悪い受講者には出入りのたびに声掛けをし、授業に参加していることへの意識付けを行った。
また、ビデオ教材のスピードについていけず、ことばや表現のリピートが間に合わない受講者に対しては、様子を見ながら適宜ビデオを止め、教師が再度ことばや表現を繰り返すなど、工夫を行った。

学習効果・成果（総括）

・日本の有名な観光地をビデオで見ることで、日本が良く知られている東京や大阪などの大都市だけではなく、地方にも素晴らしい観光地があることが分かり、来日の動機付けにつながった。
・ナレーションや会話例など、教師の発話など多くの日本語を繰り返す聞くことで、日本語の聞き取りが向上した。
・受講者同士で会話練習を繰り返すことで、お互いに信頼関係が築かれ、発言に反応しあうなどのコミュニケーションが生まれた。
・ネイティブ教師から直接法で日本語を学び、内容を理解し、発言ができたことで日本語学習の自信につながり、日本語学習の意欲向上につながった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ＩＳＩ学園　専門学校長野ビジネス外語カレッジ

住所：長野県上田市中央３－５－１８

実証概要

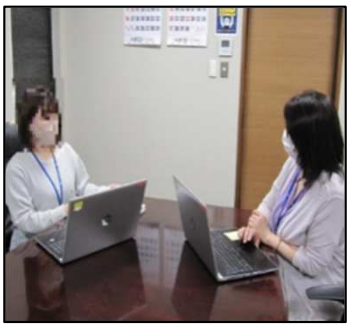
学校法人 ISI 学園 専門学校 長野ビジネス外語カレッジ

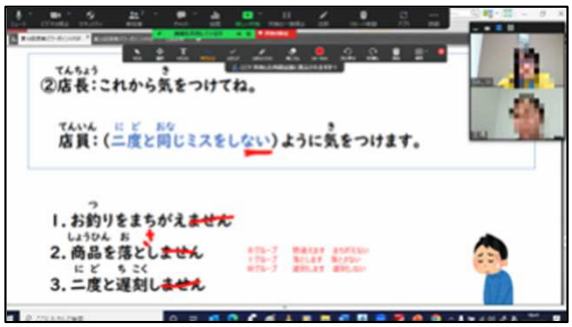
コース名	就労コース				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１２回　計１，０８０分				

主な教材教具	・受講者用予習動画（英語、中国語、ベトナム語） ・授業用会話動画（日本語） ・授業パワーポイント（ＰＤＦ） ・授業マニュアル（ＰＤＦ） ・副教材（ワード、パワーポイント）	・ＰＣ ・ヘッドセット ・Ｚｏｏｍ会議システム ・スマートフォン ・タブレット

受講者情報	受講者数合計１０人（【内訳】渡日前留学生５人・国内就労者１人・海外就労者４人） ・基本的には海外の自宅、あるいは職場からＰＣで参加。自宅、職場からはＰＣ使用が１００％で、受講者自身が翻訳機能を適宜使って、話したいことを話すことができたり、事前学習用の教材を同時に開いて意味を確認することができた。 ・時には移動中のバス（電車）の中からタブレットやスマートフォンで参加していた受講者がいた。外から繋ぐことは、ごく稀なことであったが、それでも声を出してリピートしてくれる受講者がいた。

授業概要	・日本での就業（アルバイト）を希望・検討している未入国の方を対象とし、Ｂ１以上の日本語力の方を対象とする。 ・「コンビニ」の就労場面を取り上げ、日本で働く時に役立つ日本事情の理解を促すとともに、日本語の語彙や表現を習得する（聞く、話す、読む）ことを目標とする。





申請時点　【課題と目標】

・日本留学を考えていても入国できなければ取りやめたり、現状のオンライン教育に満足せず継続しない受講者が多い。オンライン授業での相手の反応を見つつ双方向性の授業が難しい。
・日本留学を迷う受講者に対してオンライン教育をきっかけに日本語学習への意欲を起こさせ、入国可能になった際は日本全国（特に地方でも）充実した留学ができることを訴求する。

実証終了時時点　【成果と反省】

・今回は少人数のクラス編成にしたため、一人一人の反応を確かめながら授業を進めることができた。ただ、学校の経営的に考えると、このような少人数制は難しい場合が多く、経営、授業運営の両面から考えて適切なクラス人数を検討すべきだろう。
・カメラをオフにしたままの受講者もおり、表情が見えないことで、受講者の理解度や感情が読み取りにくいという課題は残された。

事業成果

オンデマンドオンライン ✖ 読む

オンデマンドでは、就労の場面のおけるモデル会話を事前に視聴し、そこに提出されている単語、表現の意味、用法、モデル会話の内容を理解させた。
オンラインでは、「モデル会話の内容に関するQA」「単語、表現、モデル会話のリピート練習」「ポイントとなる表現の中にある動詞や形容詞の接続を理解し、代入練習」「確認クイズで状況に応じた表現を選択できるかを確認」した。
モデル会話を読ませ、内容を理解しているか、口頭で質問し、内容については概ね理解度が高かった。事前学習で翻訳付きのもので学んでいるためかも知れず、今回の評価方法では、読解力がついたかはあまり明らかではないが、モデル会話や確認クイズを音読するときの流暢さからある程度、力がついてきたことが感じられた。

オンライン ✖ 日本事情日本理解

「単語、表現、モデル会話のリピート練習」「話すタスク（コンビニに売られているものや、働く時の習慣など、自国と日本の違いを見つけて話す。コンビニ店長の仕事、経営のビジョンについて話す。現状分析、提案について話す。）」「確認クイズで状況に応じた表現を選択できるかを確認」した。
話すタスクやウォーミングアップのフリートークの中で、自国との比較をすることによって、日本事情をある程度理解できたと考える。
受講者からも日本のこと、特にコンビニのことがわかったので、留学したら、コンビニでアルバイトをしてみたいという声があった。

独自の取組

・教材の中にある代入練習だけでは物足りなさを感じたので、モデル会話の中に出てくる文型や、動詞の活用（使役や意向形）などの練習を取り入れたところ、日本語教育で一般的に使われる文法の用語はあまり知らず、体系的には学習していないことがわかった。留学後に必要となることが予想される用語も教えたところ、受講者も大変熱心にメモを取っていた。留学した時に学校で授業を受ける際に役に立つと思われる。

学習効果・成果（総括）

・受講者の間にレベル差があり、上のレベルの受講者にとっては教材の「問題」部分では簡単で、すぐに１００％答えられるようになったが、下レベルの受講者にとっては難しかったため、モデル会話の確認、リピートに時間をかけることによって、最終的にはすぐに正答できるようになった。
・モデル会話のリピート、代入ドリルに留まらず、ウォーミングアップとしてフリートークの時間を取ることができ、開始時点より会話力がついてきた。
・オンライン授業を通して、「１０月に日本に留学したら、コンビニでアルバイトをしてみようと思うようになった」、「日本へ行く前にたくさん日本語を聞いたり、話したりする機会を持てたので、少し安心して日本へ行ける」という声を聞くことができた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

帝京平成大学附属日本語学校

住所：東京都豊島区東池袋４－２６－１０

実証概要

帝京平成大学附属日本語学校

コース名	観光コース				
日本語レベル	Ａ１	Ａ２	Ｂ１	Ｂ２	Ｃ
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回４５分×６０回　計２，７００分				

主な教材教具

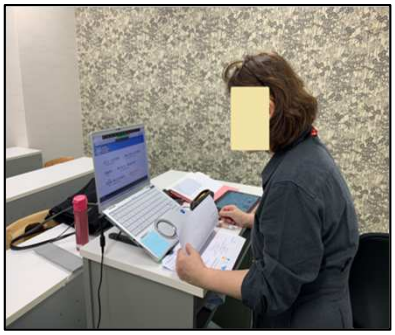
【受講者用】・事前学習用翻訳付き動画
【教師用】・授業用日本語版動画・教師用マニュアル・ナレーション日本語スクリプト
・授業用日本語版ＰＤＦ
・シラバス、表現、語彙一覧表・事務局提供パワーポイント

受講者情報

受講者数合計２４人（【内訳】国外留学希望（予定）者２２人・海外就労者２人）
・授業では全てＺｏｏｍを使用。
【受講者側】・自宅ＰＣ・受講者所有のスマートフォン・受講者が属する学校のＰＣ＋TVモニター・ネットワーク　環境は受講者それぞれの状況により、Wi-Fi、携帯電波など様々
【教師側】・オンライン対応ノートＰＣ（学校備品）、校内Wi-Fi

授業概要

・外国人の関心が高い日本の観光地の中で１０地方、観光スポットや食べ物、地方の名物、方言などを紹介。
・タスクシラバスにより、観光地での会話を１回に４編学習する
・１回１地域９０分授業、その中で２つの場所を取り上げる。（４５分で１つの場所を学習）
・反転授業のため受講者は授業前に事前学習用オンデマンドビデオ（翻訳付き）を視聴する。
・前後半それぞれの冒頭にナレーション。その場所の概要を視聴する。
・受講者の人数、レベル、バックグラウンド等により、内容を微調整。
　会話や学習表現の中でより使用頻度が高いものを選び、代入や会話練習を別途実施。
　全てのコンテンツを行うケース、文法的な説明が多く必要なケース、受講者の興味をより強く引くために動画以外のエピソードを共有するパターンなど、多岐にわたる。
・いずれのケースでも、受講者の日本への興味や理解を高め、紹介された観光地を訪れたいという気持ちを持ってもらう、そして観光で必ず使える表現を練習する。



申請時点　【課題と目標】

・日本語教育機関としては、留学希望者の日本への関心度をさらに高め、留学希望者や日本語受講者を増やす。
・面談やアンケート等を実施し数字データで成果を表す。

実証終了時時点　【成果と反省】

・通信環境や効果については概ね問題なかったが、受講者側の使用デバイス不調により音声しか届かなかったことも稀にあり、その時は本教材の強みを活かすことができなかった。授業で動画が使えなかった場合の対処方法は、ある程度共通でバックアップ案を持つ方が良いと考えている。
・３クラスとも９０％以上の参加率。
事後アンケートの集計結果によると、１００％の割合で授業内容に満足し、日本語能力が向上した。また引き続き日本語の勉強をしたいと回答している。１割の受講者は仲間同士の交流はあまりとれなかったとの回答があった。＊アンケート回収率３２．４％（スタンダードコース含む）

事業成果

オンライン × 聞く

授業中のナレーションおよび動画視聴時に、内容を理解できているかどうか教師側から都度確認を行った。ナレーションや動画を授業中に視聴した後、理解が難しそうな言葉や言い回し、その地域特有の名産物などについて理解しているかどうか敢えて質問を行った。シチュエーションを本文と変えた「代入・会話練習」でも、きちんと理解した上で観光地での会話が出来ていた。

オンライン × 日本事情

教材動画のナレーション部分を視聴後、特に面白い風習や特色、特産物などについては動画の振り返りとして一緒に復習した。「どう感じたか？自分の国ではどうか？」など、いくつかの質問を投げかけながらより一層の興味を引き立てる工夫を行った。
・日本文化と共に日本の土地別の特色にも興味・関心を高めることができた。「行ってみたい」「食べてみたい」「お土産を買いたい」など、非常に前向きな言葉を引き出すことができた。

独自の取組

・独自の取組としては、各回の「代入・会話練習」が挙げられる。
　各回の会話の中で、特に使用頻度が高い表現、よく耳にする言い回しを取り上げ、教師の独自のパワーポイントを用い発展学習を行った。そのことにより、受講者が教材の場面設定以外の表現やことばを練習することが可能となり、言葉の使用範囲を広げることが出来た。受講者も非常に前向きに、楽しく、これらの練習に参加し、言葉のバリエーションが増えたことを喜んでいた。
・日本文化や日本事情に関し補足説明が必要なケースでは、追加で独自の資料を作成するか、Ｗｅｂ情報を画面共有で一緒に閲覧するなどを行った。
　受講者の理解が一層深まり、教材以外の写真を目にすることで、関心度を高めることが出来た。

学習効果・成果（総括）

タスクシラバスであり、日本の観光地を全１０回かけて巡る内容であることも継続受講に繋がった。一度でも参加した受講者はその後継続的に参加している。
・教材である動画、マニュアル等の整備もしっかりなされ、教師側にとっても教えやすい内容である。
　昨今では非常に汎用性の高いＺｏｏｍの利用も、受講者の参加のハードルを下げている。
・一方で、１つのクラスにレベルの違う複数名が参加している場合、どちらかのレベルに偏ることなくなるべく公平になるよう配慮するのは難しい。
　レベルも極力同程度を１クラスにすることが望ましい。
・また、今後は事前学習用ビデオの視聴を受講者へ徹底することが必要と思われる。（視聴して参加するか否かで、学習効率に差が生じるため）

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ギャラクシー学園　東京ギャラクシー日本語学校

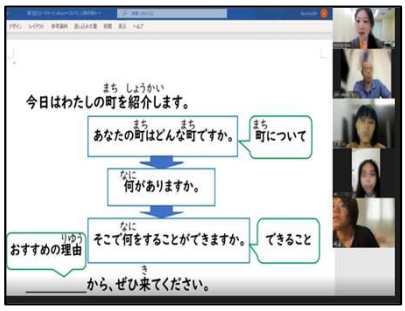
住所：東京都中央区新川１－１５－１３

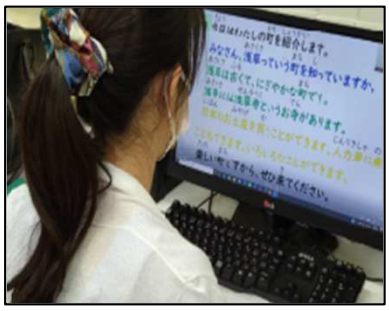
実証概要

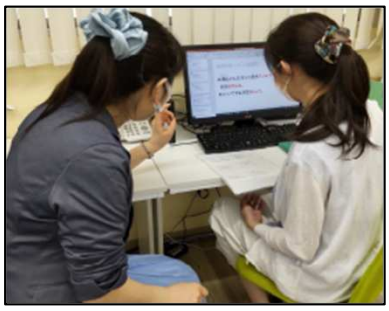
学校法人 東京ギャラクシー日本語学校 Tokyo Galaxy Japanese Language School

コース名	フリーコース《初級会話》				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回１２０分×１０回　計1，２００分				

主な教材教具	オリジナル教材 ①パワーポイント・動画スクリプト・語彙・表現・文型（それぞれ例文も含む）・会話例／会話練習用枠 ・ゴールスピーチ・会話の構成を確認するためのフローチャート・次回のテーマ予告 ②動画：各回のテーマに沿った内容のスピーチまたは会話の到達目標例となるもの。 ③語彙リスト・フローチャート（受講者用）
受講者情報	受講者数合計１９人（【内訳】渡日前留学生５人・国外留学希望（予定）者９人・海外就労者２人・その他３人） 全ての回をオンラインで実施した。受講者は各自が持つデバイスで受講した。
授業概要	当校作成オリジナルカリキュラムを使用。 初級（A１・A２）レベルの受講者を日本語のコミュニケーションに慣れさせておき、将来、中上級レベルに上がった時のコミュニケーション力向上につながるような基礎を固めておく。 <受講者の背景> ・海外にいる受講者は日本語を話す機会が少なく、日本語でコミュニケーションをとる機会が乏しい。 ・コロナ禍以前は海外在住でも観光で来日したり、現地の日本人とのコミュニケーションの機会があったが、コロナ禍で極端に機会が減ってしまった。 <授業内容> テーマは海外在住の受講者にとって興味が持てる身近な話題を中心に構成（例：最近買ったお気に入りのもの、自分の町の紹介、おすすめの料理）。 以下の流れで授業をおこなった。 ①テーマ導入（動画、スクリプトを使用） ②必要な語彙、表現、文型の導入、練習 ③テーマに沿ったスピーチ、会話を発表







申請時点　【課題と目標】

・文法が分かっても、自分の言葉で発話する能力がなく、コミュニケーションができない初級受講者は多い。しかし将来自分の目的を達成するためにはその場になってからでは高度な発表力はつけられない。初級レベルからそれに慣れ、コミュニケーション能力を高めておく必要がある。
・受講者が自分の言いたいことを自分の知っている文型や言葉で、自分自身のことや考えを相手に伝えられるより深いコミュニケーションができるようになることが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・普段生活の中で日本語でコミュニケーションをとる機会がほとんどない受講者にとって、すでに知っている文法、今回新たに身に着けた文法をコミュニケーションの中で使用するという機会を提供できた。「日本語でのコミュニケーション」に慣れることができたのではないかと思う。
今後の課題は、授業が終わった後に各受講者がそれぞれの場所で継続的に日本語でコミュニケーションをとる機会をどのように得るかという点がある。
・受講者個々のレベルの差はあるものの、授業開始時は相手の話は聞きっぱなし（あるいは聞き取ることができていない）、質問をしても「型にはまったもの」が多いという状況だった。しかし、授業終了時には「聞く」「伝える」双方の力がついたこともあり、ある程度のやり取りと、興味があることについて質問をする、ということができるようになった。

事業成果

オンライン ✖ 話す（やりとり）

各回のテーマ毎に、会話を成立させるために使える「語彙、表現」を提示した上でやり取りの練習を行った。また、相槌やテーマに見合った感想を述べる語彙を導入することで、会話の中で相手の話に対して聞きっぱなしにならないようにするための練習をした。
そうすることで、授業開始時点で全く話すことができなかった受講者は相手に質問ができるようになった。相手からの質問に簡単にだが答えられるようになった。また、授業開始時点でＱ＆Ａが１往復程度できた受講者は、相手の話を聞き興味を持った部分について重ねて質問ができるようになるなど、個々にできることが増えた。

独自の取組

・毎回の発表時にその場で受講者への評価を行った。そうすることで、受講者は修正すべき点を飲み込みやすかったようであった。
・受講者が授業に参加する際に「カメラ・マイクをオン」にして常にお互いに顔を見合わせ声が聞けるという状態で授業を行うことは大前提として必要であると強く感じた。　「講義」ではなくコミュニケーションをはかる学習であるため、今回も徹底してそのように実施した。

学習効果・成果（総括）

初級段階から、簡単な文型でもうまく組み合わせていくことでコミュニケーションはとれるということを体験し、「日本語でコミュニケーションをとる」ということに慣れる、という点で今回の学習方法が効果があるという点は実証できたと思う。ただし、各課で扱うトピック、文型、語彙などを受講者の環境に合わせより工夫することで更なる効果も期待できると考える。今回作成した教材を基盤に、受講者ごとに毎回多少の修正を入れながら使用して行くことが望ましい。
インターネットの整備などについては各受講者側の環境を整えられるかという点によるところもあるが、オンライン教育を行う場合は学習対象者により授業時間の設定などを一番効率がよくなるよう事前に設定する必要がある。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ギャラクシー学園　東京ギャラクシー日本語学校

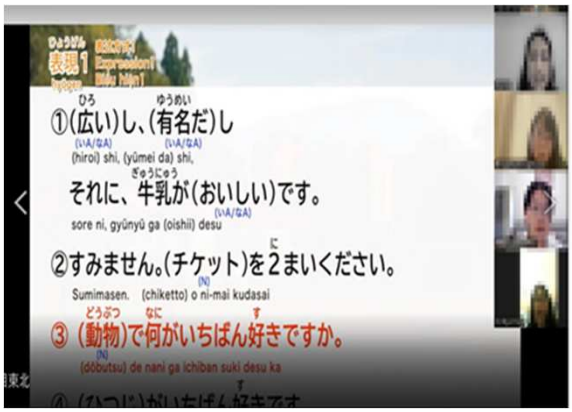
住所：東京都中央区新川１－１５－１３

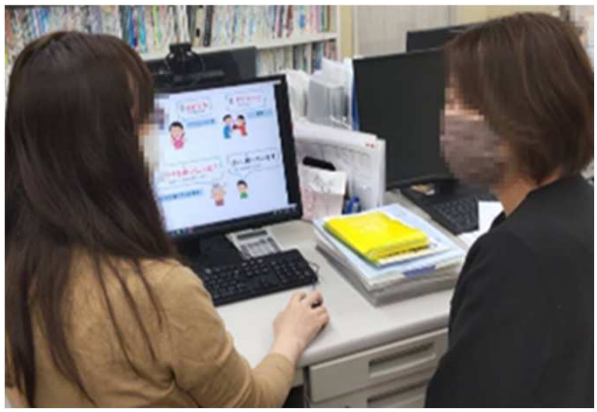
実証概要

学校法人 東京ギャラクシー日本語学校 Tokyo Galaxy Japanese Language School

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・自主事業観光コース作成　授業用教材および反転授業用翻訳付き教材
受講者情報	受講者数合計２３人（【内訳】渡日前留学生３人・国外留学希望者１３人・海外就労者３人・その他４人） オンライン：受講者は各自が持つデバイスを使用
授業概要	事務局提供のカリキュラムと動画で授業を展開。 当校独自の取り組みとしては、以下の３点を導入。 ①内容理解を深めるために、ナレーション部分のクイズを実施。 ②受講者の知っている情報や感想を引き出したりするような自由度の高いやり取りを実施。 ③発話時間を増やすためにブレイクアウトルームを利用。 ＜基本的な授業の構成＞ １．挨拶、その日扱う地方についての導入 ２．地域１　①ナレーション（地方紹介）を聞きながら、理解を確認　②会話提示　③語彙確認・練習　④表現確認・練習　⑤会話練習 ３．地域２　①ナレーション（地方紹介）を聞きながら、理解を確認　②会話提示　③語彙確認・練習　④表現確認・練習　⑤会話練習 ４．名物or表現 ５．クイズ





申請時点　【課題と目標】

・１年以上留学生が日本に入国できなかったことで、日本留学への関心が薄れつつある。日本観光を取り上げた日本語の授業を受けることで、日本語学習とともに日本留学への関心を呼び戻す。
・オンデマンドの反転授業教材により、どのレベルでも観光場面におけるタスクが遂行できる会話を理解・習得する。また日本各地の観光事情についても理解を深める。

実証終了時時点　【成果と反省】

・事前学習用動画の活用により、授業の内容理解がスムーズに進んだ。また、会話練習の際にブレイクアウトルームを使うことによって、国籍の違う学習者同士でやり取りもすることができ、日本語でのコミュニケーションに自信を持つきっかけ作りができた。
・会話の分量が多かったため、練習が充分ではなく、目標とする観光場面タスクが遂行できるレベルまですべてを持っていくことができなかったのが課題である。

事業成果

オンライン ✖ 話す（発表）

単純な語句を使用してだが、大半の受講者は観光地についての自身の知識や感想を述べることができるようになった。質問をしながら、学習者が言いたいことを引き出し、それをつなげて発表することが可能になった。しかし、教材で扱う語彙や表現が観光シーンで使用するものを主としているため、知っている語彙が少ないと発表が難しくなるという課題もわかった。

オンデマンド ✖ 日本事情

動画教材は受講者に好評で、日本文化に対する関心と学習意欲を高めることができた。受講者によって日本に関する知識量や日本語レベルに差があったが、それぞれに得るものがあり、満足度は高かった。単なる観光知識から日本理解へと深めていけるかを今後の授業の課題としたい。

独自の取組

・授業内のやり取りをスムーズに行うため、口頭練習の際は常にマイクをONにして練習を行った。
・単語一つであっても自分の考えを発表するような質問を随時行った。ナレーション部分は、内容理解の助けになるよう、理解が難しそうな語彙や内容については説明を行い、発表につながるように促した。
・会話を練習する際は、役割分担をしたり、ブレイクアウトルームを使用したりして、受講者間でやり取りする場も設けた。

学習効果・成果（総括）

オンライン・無料・土曜日の午後という条件でコースの辞退者を懸念していたが、動画や授業内容を楽しんでいる受講者が多く、大幅に人数が減ることなくコースを終了することができた。
観光に関心があり熱心に授業を受けていた受講者多いことから、学習意欲の継続にはコンテンツ内容が重要であることがわかった。
また、反転学習用動画の活用効果としては、学習者の理解度を促進することに大変役立った。
事前学習用動画を視聴することによって、事前に行う授業の内容が大枠で理解でき、特に初級の学習者にとっては安心して授業に参加できていた。学習者の中には授業後に事前学習用動画で復習をした者もいた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

学校法人ギャラクシー学園　東京ギャラクシー日本語学校

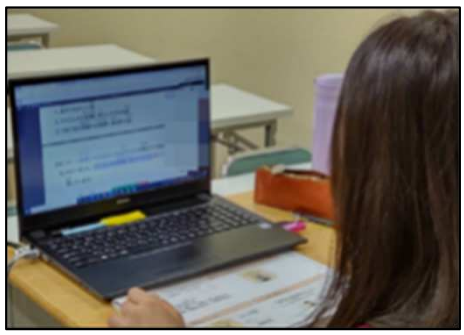
住所：東京都中央区新川１－１５－１３

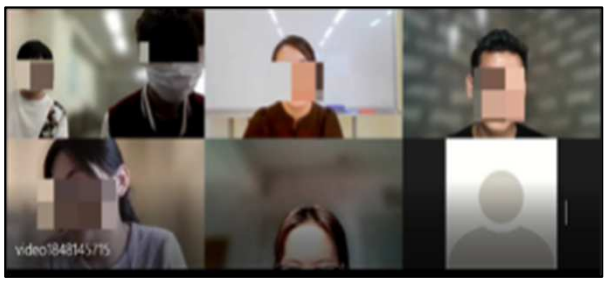
実証概要

学校法人 東京ギャラクシー日本語学校 Tokyo Galaxy Japanese Language School

コース名	就労コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１２回　計１，０８０分				

主な教材教具	・就労コース　事務局提供の授業用教材および反転授業用動画教材
受講者情報	受講者数合計２６人（【内訳】国内在籍留学生１１人・渡日前留学生５人・国内留学希望者５人・海外就労者３人・その他２人） ハイフレックス オンライン：母国からまたは日本から、受講者の持つデバイスを使用 オフライン：教室内で直接授業に参加
授業概要	●基本的な授業の構成 ※受講者は授業前に各国語版事前学習動画を視聴 ※授業では日本語版授業動画を使用 （１）挨拶、その日扱うテーマについての導入 （２）語彙・表現確認 （３）動画視聴、内容確認、スクリプトを見ながら動画会話をリピート （４）今日のポイント （５）確認クイズ （※２１課、２２課） （６）店長としてどう考えるか　導入、ワーク、発表 ・「今日のポイント」で習った箇所を白抜きにしたｗｏｒｄスクリプトを使用し、発話やシャドーイング練習を実施





申請時点　【課題と目標】

・アルバイトをしたい受講者にとっては、コンビニ等での就労はハードルが高い。
来日前あるいは来日直後にこの授業を受けることにより、アルバイトに必要な日本語力を高めたい。
・コンビニ等就労場面での日本語を反転学習により学ぶことで、初級レベルの受講者にとっても理解を可能にし、アルバイトへ、さらに就職に繋げられることを目指す。

実証終了時時点　【成果と反省】

・コンビニのお客さん→アルバイト店員→店長と場面の段階を踏むことで、アルバイトの日本語だけでなくコンビニにおける語彙や表現を増やし、理解を高めることができた。
今後は習った表現をより実践的に使えるような練習を課題としたい。日本の就労事情についても理解を深め、受講者によっては来日後に日本での就業を目指す人もいたり、母国の日系企業への就職活動をしている人もおり、日本語学習への意欲を高められたと感じる。

事業成果

オンデマンド ✖ 聞く

・事前学習用動画での予習により、意味は理解できたため、多少難しい語彙・表現も聞き取ることができるようになった。また、事前学習用動画を使用してシャドーイング練習を行うという受講者も増え、内容がしっかり聞き取れるようになったとの声もあった。

オンライン ✖ 読む

・漢字にはフリガナがあるため、漢字圏・非漢字圏で大きく差が開くことはなかった。それよりも個々の日本語力によって、読むスピードに差が出ていることがわかった。
・動画教材を見ながら「聞く」ことで内容を理解し、その後語彙・表現やスクリプトを「読む」ことで文字を認識する。詳細質問の解答によって、「聞く」「読む」の２技能をもってインプット内容が正確に行われたことが評価できた。

独自の取組

・授業中は常にマイクをONにし、質問したり練習を行ったりした。
会話の練習の際は、ブレイクアウトルームを使用したり、チェーンドリルなどをして、受講者間でやり取りする場を設けた。
・動画教材スクリプトを見ながら詳細を質問し、文字でも正しく認識しているか確認した。
・敬語表現によって相手への尊敬度を表せるように、動画スクリプトからわかる日本事情を補足を入れながら解説した。
→受講者によって日本に関する知識量や日本語レベルに差があったが、それぞれ底上げされると同時に、受講者の満足度も高かった。

学習効果・成果（総括）

国内・国外の受講者関係なく、誰しもが客の立場でコンビニを利用したことがあるので、客の立場から授業に入ったのは、就労場面の日本語を学ぶうえでスムーズだった。また、客からスタッフに伝える語彙や表現を学び、後日の授業で実際にコンビニで言ってみたという報告もあり、実践的だった。
アルバイトの面接や店長とのやり取りを学ぶことで、受講者が日本のコンビニでの就労場面を容易に理解することができた。授業内でお互いの国のコンビニ事情について話し合う時間も設けたりしたので、興味を引き出すことができた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

東京こころ日本語学校

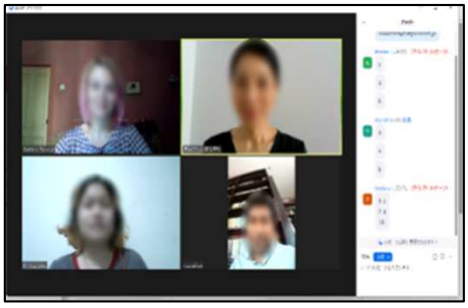
住所：東京都板橋区常磐台３－２５－２

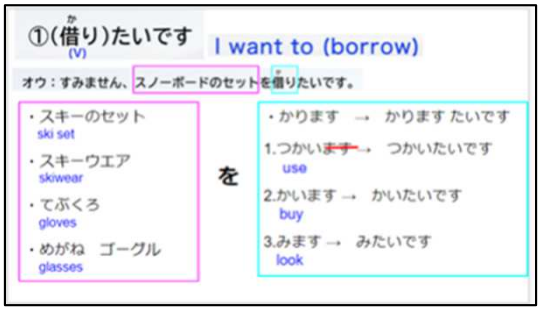
実証概要

Tokyo Cocoro

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・観光コース授業用教材（１～１０課） ・事前学習用翻訳付き動画（１～１０課） ・文法補助教材（独自作成）
受講者情報	受講者数合計４人（【内訳】国外留学希望（予定）者４人） ・オンライン（Ｚｏｏｍ、書画カメラ使用）＋オンデマンド
授業概要	事前学習ビデオを視聴し、各観光地に対するイメージを持っておく →モデル会話を音読、教師-受講者または受講者-受講者で読み合わせ →重要語彙、表現を導入、項目により代入練習を行う →基礎的な文法項目を導入 →モデル会話に戻り、導入した語彙、表現、文法を代入しながらオリジナル会話に発展させる →確認クイズ





申請時点　【課題と目標】

・日本の中心であり外国人観光客も多い東京に立地しているが、授業内ではなかなか観光場面での会話指導まで行うことができていない。
・日本の魅力を発信し、日本のファンを増やす。

実証終了時時点　【成果と反省】

・観光場面での会話を中心に指導ができた。また、受講者に知識欲があり、それを満たすために初級文法の復習を補足した。それにより、モデル会話を展開する力が付き、テーマに即した様々なシチュエーションを想定して会話を進めていくことができた。
・授業中、日本の文化や民芸品、お土産に関する質問が多数寄せられた。また、「ここに行きたいです」「これを買いたいです」など、具体的な希望も多数聞かれた。それぞれの観光地の特徴や、日本の多様性を感じ、興味を持っている様子が強く感じられた。

事業成果

オンライン ✖ 話す（やりとり）

モデル会話を音読、教師・受講者または受講者同士で読み合わせ～重要語彙・表現を導入、項目により代入練習を行う～基礎的な文法項目を導入～モデル会話に戻り、導入した語彙、表現、文法を代入しながらオリジナル会話に発展させる～確認クイズの流れで授業を実施した。
授業毎に担当教師が授業後の振り返り（授業日誌記載）を通して、Ａ・Ｂ・Ｃの独自評価を付けた。結果、全員がB以上の評価となり、全体を通して、授業目標は達成したと言える。

※【独自評価基準】
Ａ…学習目標を十分達成していると言える。または学習目標以上の成長が見られる。モデル会話が詰まることなく、流暢に言える。教師からの問いかけに流暢に正しい反応ができる。
Ｂ…充分とは言えない部分もあるが、学習目標は達成していると言える。
　　モデル会話が一部詰まったり、流暢ではない部分があるが、概ね会話が成立していると言える。教師からの問いかけに流暢とは言えない部分があるが、正しく反応ができる。
Ｃ…学習目標が達成しているとは言えない。モデル会話が流暢に言えない。教師からの問いかけの意味が分からなかったり、正しい反応をしているとは言えない部分が目立つ。

独自の取組

受講者全員が既修者であったが、語彙や表現について、習ったことはあるが、忘れてしまったという発言が見られた。教務で話し合い、会話モデルをもとにＦｏｎＦ形式で文法事項の補助練習を取り入れた。それにより、表現の幅が広がったこと、会話モデルに独自のアイデアを代入し、様々なシチュエーションで練習できたのが良かった。
「意味をしっかり理解して進みたい」という雰囲気を感じたため、対策を行った。質問がありそうな語彙・文法を予測して、事前に説明を考えておいたり、写真やイラストを準備したりして、授業に臨むようにした。結果、質問に対して、ほとんどの場面で理解できたという反応を得ることができた。

学習効果・成果（総括）

授業を進めるごとに学習した項目について、よく習得できている様子が伺えた。例えば、第６回で「～ていただけませんか」を学習したが、第７回で再び出てきたときも、前回よりも上手に使いこなせている様子が伺えた。授業を進めるごとに、こちらが指示しなくても、モデル会話を自分でアレンジしたり、モデル会話が終わった後でも、続けて話ができるようになった。授業が進むにつれ、その傾向が強くなっていった。最終日に「とても寂しい」「レッスンはとても楽しく、勉強になった」「周りに日本語を話す人がおらず、残念だ」「（日本語の）会話クラブがあるか」など、勉強を続けたいという旨の発言が多く見られた。
途中離脱した１名以外は、目標であった出席率８０%以上が達成できた。以上のことから、最後まで受講した３名の満足度が高く、一定の成果を挙げられたと考えている。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

一般財団法人　東北多文化アカデミー

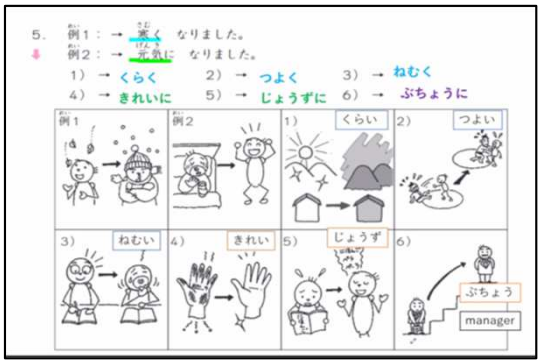
住所：宮城県仙台市青葉区米ヶ袋１－１－１４片平レジデンス３０３

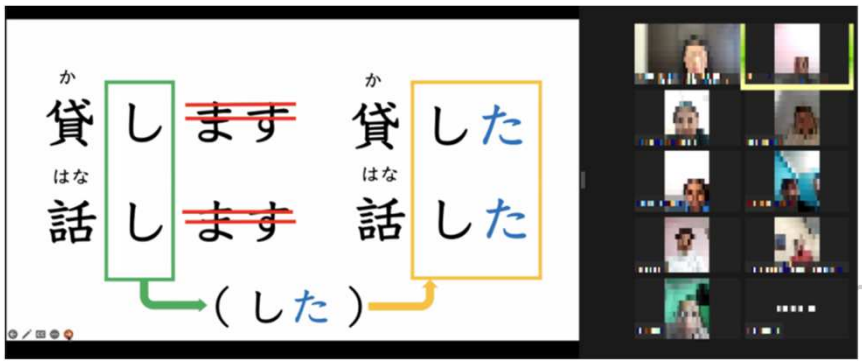
実証概要

一般財団法人 東北多文化アカデミー
TOHOKU TABUNKA ACADEMY FOUNDATION

コース名	スタンダードコース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×４７回　計4，２３０分				

主な教材教具	・ひらがな・カタカナパワーポイント教材 ・みんなの日本語初級Ⅰ第２版　電子テキスト、パワーポイント教材
受講者情報	受講者数合計１５人（【内訳】国外留学希望（予定）者１５人） 受講者は全員がネパール在住の留学希望者であり、授業は全てオンライン形式で実施した。タブレットを利用する受講者も１～２名いたが、ほとんどがスマートフォンから授業へ参加した。 場所は自宅であることが多く、日によっては通信が安定せず何度も授業に出入りする受講者もいた。エージェントに依頼して現地の日本語学校のWi-Fiを利用できるようにしたところ、通信は比較的安定した。一方で、ＬＭＳ上で行うアンケートやテストに関しては、解答途中で通信が切れて次のページに進めなくなるという問題が多発したため、事務局とメールでやり取りをしたり、Googleフォームを利用したりする方法に切り替えた。
授業概要	ひらがな・カタカナ（９０分×７回）、みんなの日本語（９０分×４０回）の全４７回（４，２３０分）の授業を完全オンラインで実施した。 ひらがな・カタカナは、授業中はパワーポイント教材を利用して読み練習を行い、授業後の課題として書き練習をさせて、添削を行った。 「みんなの日本語」もモデルカリキュラムに沿って１課から２０課まで授業を実施し、パワーポイント教材と電子テキストを利用しながら、会話に重点を置いて授業を展開した。また、５課ごとにテストを実施し、作文課題も与えて、文字を書く機会も設けた。 テストや提出物、授業中の様子などを基に、受講前、受講中、受講後に習熟度を調査し、自己評価と教師評価を合わせて４技能の評価を行った。





申請時点　【課題と目標】

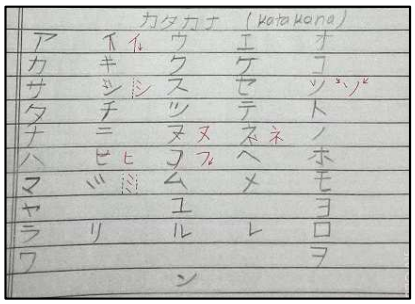
オンライン教育の底上げを行う必要がある。同時に、ハイブリッド型によるオンライン教育方法や教材への習熟を高め、自律的にオンライン教育を展開できる体制を確立することが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

新任教師に対しても、オンラインでの教育へ集中して挑戦する機会を作ることができた。オンライン教育に対応できる人材を育成でき、またオンライン授業のスキルの幅も広がったことで、今後オンライン教育を推し進める上での足がかりとなった。ハイブリッド型への挑戦は、結果としてオンラインのみの授業となったことで実現できなかったが、期間を区切って、オンライン教育への習熟を図ることができた。教材に関しても、回を追うごとに習熟度が高まった。それにより、オンライン教育については、だいぶハードルが低くなっているが、自律的なオンライン教育の運用についてはまだ課題が残った。

事業成果

オンライン × 書く



・ひらがな、カタカナのパワーポイント教材を使用し、読み練習と並行して各自のノートに扱った語彙を書かせるようにした。
・ひらがな終了後、カタカナ終了後にはディクテーションテストを実施した。
・授業内で書いたノートやテスト解答は写真を撮ってメールで送ってもらい、添削・返却してフィードバックを行った。誤りの多かったものについては教師間で共有した。
・『みんなの日本語』第１８課終了時には、「趣味」をテーマにした作文課題を与えた。ノートに書いた作文を写真で送ってもらい、教師間で共有した。

その結果、音と文字との関連付けが弱く、聞いて理解できる語彙でもディクテーションができないということが多かった。一方で、ひらがな、カタカナを認識し、概ね正確に書けるようになった。また、身近な事柄に関して、簡単な文を書くことができるようになった。

独自の取組

・コース開始直後、途中（みんなの日本語１０課終了後）、コース終了後の３回、評価を実施した。受講者はlearning BOXの利用が困難だったため、learningBOX上のものと同じ内容のGoogleフォームを作成し、そこから自己評価を入力してもらった。
・教師も受講者と同じタイミングで、同じGoogleフォームを用いて評価を行った。教師１人につき３人の受講者を割り当て、一貫して同じ受講者の評価を担当した。
・教師による評価は、各テストや課題で提出された写真を見て、文字が正確か、既習文法が正しく使えているかなどから判断した。

学習効果・成果（総括）

・コース開始時は簡単な自己紹介ができる程度だったが、学習が進むにつれて理解・使用できる語彙が増え、教師とのやり取りを楽しむことができるようになったことは大きな成果である。特に話す能力と聞く能力の伸びが大きく、教師の指示や質問に対して素早く正確に応じることができるようになった。
・電子テキストによる予習・復習を推奨したり、テストを授業時間外に行ったりと、主体的な学習が求められる場面が多かったが、テストの提出率も良く、自立学習ができていたようである。
・自己評価では、コース開始直後は「よくできる」という回答が非常に多かったが、コース途中や終了後は評価が下がり、教師からの評価に近付く傾向が見られた。授業への参加が自身の不得意な部分に気付くきっかけとなり、モチベーションアップにつながったようである。事後アンケートでも、もっと日本語能力を向上させたいので留学するまでオンライン授業を受け続けたいという意欲的な感想が多く寄せられた。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

一般財団法人　東北多文化アカデミー

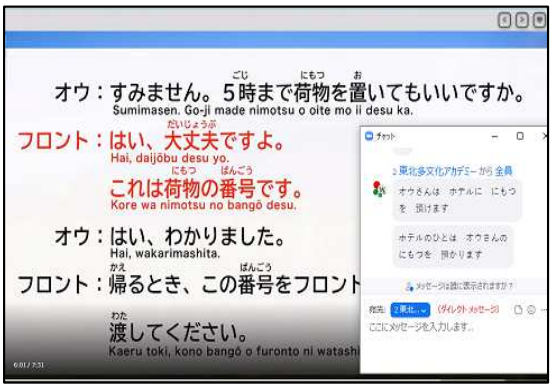
住所：宮城県仙台市青葉区米ヶ袋１－１－１４片平レジデンス３０３

実証概要

一般財団法人 東北多文化アカデミー
TOHOKU TABUNKA ACADEMY FOUNDATION

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	・事務局提供動画教材、ＰＤＦ教材
受講者情報	受講者数合計５人（【内訳】国内在籍留学生３人・国外留学希望（予定）者２人） ・全員が自宅からＰＣで受講した。インターネット環境は特に問題がなかった。
授業概要	１回９０分の授業を週１回、全１０回（９００分）行った。 動画教材を事前に視聴してから授業に参加するオンデマンド型の授業を実施した。 モデルカリキュラムに沿って、事務局提供の動画教材とＰＤＦ教材を使用し、観光スポットやその土地の文化などをを紹介して日本への興味関心を高めながら、語彙や会話表現の習得を目指した。



申請時点　【課題と目標】

・これまで対面で実施してきた観光と教育とをつないだ実績を活かし、コロナ禍でも活かせる観光型教育について、そのノウハウを獲得したい。
・オンデマンド型・ハイフレックス型による、観光の教材を用いた授業の教師としてのシラバスの構築、教材への習熟
・自律的にオンライン教育を展開できる体制の確立、観光というジャンルの教材の特性を生かした教育の可能性を広げることが目標である。

実証終了時時点　【成果と反省】

・観光と教育をつなぐ弊校の実績を活かすことができた。観光と教育のノウハウは地元に特化していたが、全国に目を向けることで数多くの発見があった。
・オンデマンド型、オンライン型での実施となったが、教材の内容が興味深く、シラバスの工夫、教材への習熟は満足いくレベルまで到達できた。
・観光担当の教師がすでにオンライン教育についての経験がある教師だったこともあるが、受講者のレベルに合わせた教材の運用などについて工夫がみられ、観光ジャンルの教育の可能性を確信することができた。

事業成果

オンライン ✖ 話す（やりとり）

・受講者は事前に動画を視聴して必要な語彙や表現を予習後に授業に参加。授業で内容を確認していき、理解が難しい部分は教師が解説した。教材を使用して会話練習を行い、必要な語彙や文法は確認し、受講者の興味などに応じて使用語彙を変えながら練習を行った。知らない語彙などについて質問したりやり取りしたりして、実践的な会話能力が向上するとともに、観光シーンでの会話を自身の生活の中の会話へ置き換え、理解した語彙や表現を使用できるようになった。

オンライン ✖ 日本事情 日本理解

・情報について教師・受講者が自由に会話を広げながら、GoogleJamboardなどのホワイトボードツールを利用して、画像などを視覚的にも共有した。また。使用したホワイトボードツールの履歴はオンライン上で受講者と共有し、いつでも復習できるようにした。授業内で扱った観光地に関して、食べ物、文化、方言などについて知ることができ、日本への興味関心を引き出すことができた

独自の取組

話したり聞いたりする活動に比べ、読む機会は圧倒的に少なく、また受講者は既に一定のレベルに達していたため教材の中で読む能力が大きく伸びるということはなかった。しかし、授業内で扱ったものや知っている情報・語彙から、関連情報へと広げて、観光や生活で必要な表現が読めるようにすることで受講者の知識を広げることができた。

学習効果・成果（総括）

・Ｂ１レベル程度を対象としたため、教材で取り上げられている基本的な会話表現は既に習得していたが、観光で使われるような語彙などは知らないものも多かったため、物足りなさを感じさせることなく、レベルに応じて日本語能力の向上が達成された。
・動画で話題になっている情報だけでなく、自分がそこへ行ったときの経験や情報を紹介したり、関連する自国の話をしたりと話に広がりが生まれ、想定していた以上にやり取りや説明の能力が習熟した。
・特に有名な観光地ばかりではなく、日本全国の地方が題材となっていたため、興味関心が途切れることなく、最後までコースを楽しむことができた。国内在住の受講者も海外からの受講者と同様にとても興味を示し、積極的に授業に参加していたのが印象的だった。

話す（やりとり）	話す（発表）	聞く	読む	書く	日本事情 日本理解	その他

早稲田京福語学院

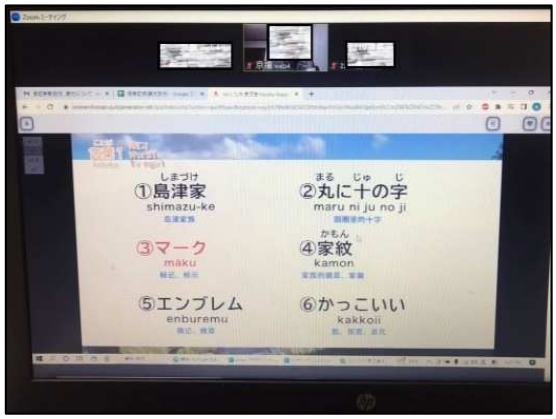
住所：東京都新宿区喜久井町１１－１京福ビル

Waseda Keifuku Language Academy
早稲田京福語学院
日本国法務省出入国在留管理庁指定適正校（優良校）

実証概要

コース名	観光コース				
日本語レベル	A１	A２	B１	B２	C
対象（受講者）	進学	就職	一般		
手法	オンライン	ハイブリッド	オンデマンド	ハイフレックス	
授業コマ数	１回９０分×１０回　計９００分				

主な教材教具	【受講者用】 ①事前学習用翻訳付き動画（英語・中国語） 【教師用】 ①授業用日本語版動画 ②観光日本語授業用日本語版パワーポイント
受講者情報	受講者数合計５人（【内訳】渡日前留学生２人・国外留学希望（予定）者２人・海外就労者１人） ・授業方法：Ｚｏｏｍを通し授業用日本語動画やパワーポイントを視聴できるよう共有 ・各受講者にはＰＣを通してlearningBOXを登録し、事前動画を視聴してもらう。 ・ＰＣからの受講　約８割
授業概要	・日本観光をテーマとして１０地方の観光情報を紹介し、日本文化や観光地での表現、教科書にない表現（方言等）についても学ぶ。 ・タスクシラバスにより観光シーンでの会話を取り上げ、同時にシラバス表現語彙の索引を利用して表現力を身につける。 　※ただし、受講者のレベルに合わせて取り扱う表現内容を選別する。 ・受講者に事前学習用オンデマンドビデオを視聴し予習してもらってから授業で再確認、実践する反転授業。



申請時点　【課題と目標】

・日本に興味がありつつも日本留学を受験勉強に偏重しすぎて、日本文化等に対する興味や意識が薄く、また実践で使う機会が少ない受講者が多い。
・日本観光の勉強を通して興味を喚起させ、会話能力を向上させることが目標である。日本観光の会話能力向上により、学んだ日本語の実践が可能となり学習意欲向上に繋がること、日本に対する更なる関心や発見を促すことを期待する。

実証終了時時点　【成果と反省】

・教科書とは違った視点から日本語を学んだこと、各地域について細かく学ぶことができたことから、文型等は既習であっても新鮮な気持ちで学ぶことができたようである。特に大阪のように特徴ある方言についてとても興味をもったようである。ただ、やはり横文字の発音が苦手なようで、簡単な例として「ガイド」という言葉一つでも英語の発音との差に戸惑っているようにも感じた。
・当初、基礎が定着していないことに加え、受講者達も受身姿勢であったことから、流暢に話すことができていなかった。しかし自身の文化との比較を促すという働きかけを行なうことで徐々に受講者同士の会話量が増え、日本の観光地と比較した受講者自身の出身地の観光地について全員がスムーズに説明できるようにまでなった。
・日本観光の際に使われる会話表現はもちろんだが、何よりそこから自身の文化との比較をし、それを発表することで、日本に対する新しい発見するだけでなく、自国について再認識するということにも繋がった。

事業成果

オンデマンド × 日本事情

教師が日本文化の紹介をしたり、日本語の固有名詞を覚えたりするだけでなく、カリキュラム以外に観光地における注意点（たとえば山などではコインが必要なトイレもあるため、事前にコインを両替しておくこと等）も説明を行った。授業開始当初よりも日本に対して強い関心を示すと同時に、自国の文化を再認識する機会になったように思われる。また、上記の通り固有名詞についてもスラスラ読めるようになり、日本に対する総合的な理解が深まったように感じた。

独自の取組

当初、会話の概ねの意味は理解しているものの、基礎が定着していなかったからか流暢に話すまでには至っていなかった。おそらく「日本の観光」という授業内容であることから受身の姿勢であるのではないかと考え、自身の文化との比較を促すという働きかけを行い、自文化との比較という形で発話を促した。すると徐々に受講者同士の会話量が増え、中旬には日本の観光地と比較した受講者自身の出身地の観光地について全員がスムーズに説明できるようにまでなった。
また方言のような観光の際に体験するであろう表現に受講者達は非常に興味を持ち、日本観光に興味を持つ起爆剤になったと思われる。

学習効果・成果（総括）

今回のコースを通し、「他国の文化を学ぶことで自国の文化を振り返ることができる」ということを改めて感じた。今後、既存の学習内容に加え、随所に観光コースの内容を導入することで、「日本について学びながら自国のことを自分の言葉で説明する」という形で、当校で目標としている「表現力の強化」に繋げていきたい。
分からない語彙等は受講者同士で助け合うなど、オンライン上でも受講者達が「傍観」から「協力」し合う形が自然と形成されていたのは予想外であった。どうしてもオンラインだと隣同士で話しにくい、相談しにくいという問題があり、「こんな質問をして笑われないか」と心配して分からないままにしてしまう傾向にあるが、今回のクラスではお互いに助け合う形ができたのは良かった。逆に言えば、クラス内でそれだけの親しい関係が築けたからこそであり、仮に大人数になってしまった場合はそれが難しいのではないかと改めて感じた。